

介護老人保健施設入所利用者の基礎疾患や
合併症等に対する医療の調査研究事業報告書

平成22年3月

社団法人 全国老人保健施設協会

はじめに

平成12年4月1日にスタートした介護保険制度は、この4月でちょうど10年の節目を迎えることになる。過去10年間に対する評価や将来の持続可能性等については、各人の立場で見解が異なるだろうが、要介護状態となっても尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な保健医療サービス等に係る給付を行う、との理念に異を唱える人は無いだろう。

一方、老人保健施設は介護保険制度スタートの10余年前、昭和60年8月に表された「中間施設に関する懇談会中間報告」にルーツを遡ることができる。介護保険制度の理念と同様、要介護高齢者の尊厳性、主体性、自立性を基本的な考え方として掲げたこの報告書で、多様化するニーズに的確に対応できる新しい施設類型、医療と福祉の「中間施設」、病院と在宅の「中間施設」として、老人保健施設が提唱されたのである。

以来20年にわたり、老人保健施設は日本の社会保障制度の「実験場」として、また、地域の多様なニーズに対応し良質なリハビリテーションを提供する施設として、障害を持つ高齢者の在宅復帰や在宅生活支援を担ってきた。介護保険制度導入により介護老人保健施設となって以降も、利用者の尊厳と有する能力に応じた自立という不変の目標に向かって、試行錯誤を繰り返しながら地道に努力を重ねてきた。昨今では、認知症高齢者の増加、要介護高齢者の医療依存度の増大、看取りの問題など、利用者のニーズや環境はいつそう多様化しつつある。また、高齢者を支える介護人材確保の問題、社会保障財源の確保など、介護老人保健施設を取り巻く状況は決して楽観視できるものではない。

しかし、そのような状況であればこそ介護保険の理念に立ち返り、高齢者が安心して住み慣れた地域で生活を続けることができるよう、現状把握に取組み、時代の要請に答えながら建設的な提言を行なうための研究に尽力することが重要である。

全老健では平成21年度老人保健推進費等国庫補助事業において次の6つの研究事業に取り組んだ。ここに、各研究事業の報告書(6冊分)をとりまとめたので報告する。

- 1 老健利用者の個別特性と時系列的状態像の指標(機能評価とコーディング)の検証に関する調査研究事業
- 2 効果的な「包括的自立支援プログラム」の運用と効率的なアセスメント方式の設定に関する調査研究事業
- 3 認知症高齢者における維持期のリハビリテーションの効果的かつ適切な提供方法に関する研究事業
- 4 介護老人保健施設の機能を示す情報とこれに関連した要因に関する調査研究事業
- 5 外国人スタッフ雇用に関する課題点の調査研究事業
- 6 介護老人保健施設入所利用者の基礎疾患や合併症等に対する医療の調査研究事業

これらの研究成果が、介護老人保健施設の関係者のみならず、高齢者の生活を支える全ての方々の取り組みの参考となり、高齢者の尊厳の保持と質の高いサービスの提供につながることを願うものである。

平成22年3月

社団法人全国老人保健施設協会 会長 川合 秀治

－ 目 次 －

はじめに	
平成 21 年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分)	
「介護老人保健施設入所利用者の基礎疾患や合併症等に対する 医療の調査研究事業」研究事業班名簿	1
I. 調査研究事業の概要	2
1. 調査研究の目的	2
2. 調査研究事業の概要	2
3. 調査研究事業班の役割と構成	3
II. 調査項目の検討	4
1. 医療の必要性に関する項目	4
2. 薬剤費、検査費に関する項目	6
3. 基礎疾患等の状況に関する項目	7
III. 調査の実施	12
1. 調査の概要	12
(1) 調査の設計	12
(2) 回収状況	12
2. 調査結果	13
(1) 調査者のプロフィール	13
(2) 調査対象者のプロフィール	15
(3) 調査対象者の調査実施期間における変化	21
(4) 調査対象者の医療の必要性	23
(5) 1ヶ月間にかかった薬剤費、検査費	25
(6) 基礎疾患等の状況	32
IV. 調査結果の考察と今後の検討課題	56
1. 調査結果の考察	56
(1) 診断名に関する考察	56
(2) 薬剤費に関する分析	56
(3) 治療行為にかかわる手間のかかり具合に関する考察	57
(4) 老人保健施設サービス利用中の急性増悪について	57
2. 今後の検討課題	58
資料編	59
「平成21年度 介護老人保健施設入所利用者の基礎疾患や合併症等に対する 医療の調査研究事業」(平成22年1月度調査) 調査票	61

平成 21 年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分)

「介護老人保健施設入所利用者の基礎疾患や合併症等に対する
医療の調査研究事業」 研究事業班名簿

研究事業班長	高 椋 清	老人保健施設創生園 理事長
研究事業班	今村 英仁	老人保健施設愛と結の街 理事長
	江澤 和彦	介護老人保健施設ぺあれんと 理事長
	四蔵 直人	老人保健施設有縁の荘 理事長
	内藤 圭之	介護老人保健施設なのはな苑 理事長
	東 憲太郎	介護老人保健施設いこいの森 理事長
	平川 博之	介護老人保健施設ハートランド・ぐらんぱぐらんま 理事長
	本間 達也	介護老人保健施設生愛会ナーシングケアセンター 理事長
	三根 浩一郎	介護老人保健施設寿苑 理事長
作業部会長	大河内 二郎	介護老人保健施設竜間之郷 施設長
作業部会	稲川 利光	NTT東日本関東病院 リハビリテーション科部長
	杉原 素子	社団法人日本作業療法士協会 顧問
	高橋 泰	国際医療福祉大学 大学院 医療経営管理分野分野責任者、教授
	中村 裕之	金沢大学大学院 医学系研究科 環境生態医学・公衆衛生学 教授
	半田 一登	社団法人日本理学療法士協会 会長
	内山 靖	社団法人日本理学療法士協会 副会長
	折茂 賢一郎	西吾妻福祉病院 管理者
	小山 敬子	医療法人社団大浦会 理事長
	田宮 菜奈子	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学専攻 ヘルスサービスリサーチ分野 教授

I. 調査研究事業の概要

1. 調査研究の目的

介護老人保健施設（以下、老健施設）は医師が常駐していることから種々の疾患を持った多様な利用者に対応している。さらに理学療法士などが常駐しプライマリケア、リハビリテーション、在宅支援、看取りなど多様な機能を持っている。しかし、要介護状態（介護の手のかかり度）区分が入所利用の基準となっているが実際の老健施設の利用者は介護のみならず、医療やリハビリテーション等の治療的な目的をもって入所している実態がある。

現在の「日常的な医学的対応（処置、投薬等の医学管理）」を含む介護報酬包括給付の仕組みで、種々の合併症の管理や利用者の不測の事態（感染症のまん延、新たな重大疾患の発症や急性増悪等）、平均入院期間が短縮した急性期病院からの治療・リハビリテーションの継続に、今後とも適切な対応を行っていきけるのかについては疑義がある。

今回の研究では、利用者の基礎疾患および合併症等（疾患群）と必要な医療のための費用（薬剤費、検査費等）について調査し、利用者への適切な医療のあり方および適切な医療資源配分の方法を提示することを目指した。

2. 調査研究事業の概要

研究班においてICD-10に準拠し、老健施設入所利用者に頻度が高いと考えられる疾患のリストを作成した。

全国老人保健施設協会会員施設のうち利用者の同意が得られる施設（概ね230施設）から利用者各20例（無作為抽出）の疾病および医療・介護の状況を継続的に調査することで、利用者の医療・リハビリ・介護の状況に基づいたケースミックス区分法を開発するためのデータを取得することを目的とし、調査研究事業に取り組んだ。

3. 調査研究事業班の役割と構成

老健施設入所利用者の基礎疾患や合併症等に対する疾患リストの作成にあたり、研究事業班を設置し、当該事業の実現に向け、事業の方向性の検討、これまでの研究で得られたデータの精査、リストを作成するための方法の整理、データ収集のための調査票の作成、調査で得られたデータの分析、考察等について多角的な検討と評価等を行った。

研究事業班の構成員は、事業の目的に従い、当協会の構成員である老健施設関係者のほか、第三者として事業を客観的に評価できる外部有識者を多数含めた構成とした。

II. 調査項目の検討

1. 医療の必要性に関する項目

医療の必要性に関する調査項目については、当協会が昨年度取り組んだ、「介護老人保健施設利用者の個別特性と時系列的状態像の指標（コーディング）の検証に関する調査研究事業」（平成20年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分））で作成した医療必要度に関する調査項目を今回の調査でも使用することとした。

この調査項目は、いわゆる「医療区分」をベースに、独自に0～6の7段階評価で「医療度」をたずねる設問を導入しており、回答に際しては必要に応じ当該施設の医師等に確認のうえ、最もあてはまる「医療度」を1つ選択することとしている。また、「医療度5」（医療区分2相当）または、「医療度6」（医療区分3相当）を選択した場合は、具体的な疾患・症状について選択肢の中から選択させる形式とした。

《医療必要度（医療度）に関する項目》

医療度	主な治療環境	状態・実施状況	備考
6	主に入院等	医療区分3の状態	
5	主に入院等	医療区分2の状態	
4	入院等 外来	原則、毎日かつ日常的な医療管理状態。 1) 検温、血圧等の「バイタル測定」は、原則1日3回以上 2) 8回以上ではないが、ほぼ日常的に喀痰吸引が実施されている。 3) 1日合計1000円以上の薬剤および日常的な処置が実施されている。 4) 近い将来の「死亡（再発等による）」が見込まれるが、医療区分2・3には合致しない状態 5) 難病（特定疾患）と認定されているが、医療区分2・3には合致しない状態 上記の1)～5)のいずれかに合致した状態	・いわゆる医療区分1 ・「上記3」ではないが、医療区分2・3でもない状態 ・左記の条件に該当しても、医療区分2、3の状況は下記4・5とする。
3	入院等 外来	原則、毎日かつ日常的な医療管理状態で、病態による日常生活への影響がある。 1) 検温、血圧等の「バイタル測定」は1日3回未満の安定した病態かつ 2) 原則1日合計1000円未満の薬剤および日常的な処置が実施されている。	・いわゆる医療区分1 ・左記の条件に該当しても、医療区分2、3の状況は下記の4・5とする。 ・突発的な場合を除き、日常的にはこの方への「喀痰吸引」は実施されておらず、また意識もされていない。
2	外来	生活習慣病や後遺症等が基礎にあり、 変調等により「主に内科的」診療回数が増加した状態。 病態による日常生活への影響は大きくはない。 (身の回り、排泄等は自立している。)	・多少変調をきたした外来診療レベル ・「上記1」ではないが、「下記3」でもない状態 ・リハビリテーションや創傷処置等の「繰り返しの受診」を除く ・一時的に薬剤費は「1日合計1000円以上」となる場合を含む。
1	外来	生活習慣病や後遺症等により、 月に1-2回の「主に内科的」診療を受けることが適切(必要)な状態。 病態による明らかな日常生活への影響は認められず、病態の変動も少ない。	・いわゆる「安定した外来診療レベル」 ・リハビリテーションや創傷処置等の「繰り返しの受診」を除く
0	—	いわゆる「無疾患」、「健康」状態	

2. 薬剤費、検査費に関する項目

薬剤費、検査費については、調査対象者の平成21年12月の1月間にかかった費用について、①定期薬、②急性増悪・新たな発症への対応に要した薬剤費、③その他の薬剤関係の費用と、④検査費を記入する設問を設けることとした。

また、老健施設においては日常的な医療が包括給付となっていること、また他科受診に際しても投薬については老健施設の費用負担となることから、全使用薬品のうち後発品(ジェネリック薬)の使用割合に関する設問を加えることとした。

《薬剤費はいくらでしたか?》

※(薬価点数でお答え下さい) 例) ラシックス錠20mg 9.7円

12月1ヶ月間の定期薬 (日常的な疾患管理のための処方)の費用	12月の合計(薬価点数) _____円
12月1ヶ月間に急性増悪・新たな発症への対応 (内服、点滴、処置、外用等を含む)に要した薬剤費	12月の合計(薬価点数) _____円
12月中のその他の薬剤関係の費用	12月の合計(薬価点数) _____円
後発品(ジェネリック薬)の使用割合は、全使用薬品の概ね何パーセントくらいですか	概ね _____%程度

《調査対象者の平成21年12月の1ヵ月間にかかった検査費はいくらでしたか?》

検査費	12月の合計 _____円
-----	------------------

3. 基礎疾患等の状況に関する項目

調査項目の検討に際しては、当協会が平成15年度に実施した「介護老人保健施設における基礎疾患の統計的研究事業」(平成15年度老人保健事業推進費等補助金)で作成した調査項目を基本的に継承することとし、今回の調査で疾患区分の見直しを中心に検討を行った。

《参考》平成15年度「介護老人保健施設における基礎疾患の統計的研究事業」で作成した調査項目

都道府県		施設名		帳票5		
ID	氏名 (送付時には消す)	5102 年齢	5103 性別	1) 男 2) 女		
平成16年3月31日現在の状況			平成17年3月31日現在の状況			
5104	要介護度 (1~5を記入)					
5105	寝たきり度 (自/J1/J2/A1/A2/B1/B2/C1/C2を記入)					
5106	痴呆自覚度 (自/I/2/3/Mで記入)					
16年3月31日現在の疾患に(○)		主入所理由 1つに(○)	17年3月31日現在の疾患に(○)			
脳・神経・精神	5105 片麻痺等が明確な脳梗塞	()	()			
	5106 麻痺が一目瞭然でない脳梗塞	()	()			
	5107 脳出血	()	()			
	5108 その他の脳血管障害	()	()			
	5109 脳血管性痴呆	()	()			
	5110 アルツハイマー病等の痴呆	()	()			
	5111 その他の痴呆	()	()			
	5112 うつ病	()	()			
	5113 パーキンソン病や脊髄小脳変性症等の神経疾患	()	()			
	5114 その他の脳神経・精神疾患	()	()			
	骨関節等	5115 脊椎損傷	()	()		
		5116 脊椎管狭窄症	()	()		
		5117 坐骨神経痛	()	()		
		5118 頭痛・腰痛等の種々の疼痛	()	()		
5119 関節リウマチ等の膠原病		()	()			
5120 骨粗しょう症		()	()			
5121 変形性脊椎症		()	()			
5122 大腿骨骨折(頭部含む)		()	()			
循環・呼吸	5123 大腿骨以外の骨折	()	()			
	5124 変形性膝関節症	()	()			
	5125 高血圧	()	()			
	5126 慢性心不全	()	()			
	5127 心筋梗塞・狭心症	()	()			
	5128 5125-5127の心疾患	()	()			
	5129 閉塞性動脈硬化症	()	()			
	5130 気管支喘息	()	()			
	5131 気管支拡張症・慢性気管支炎等の慢性閉塞性肺疾患	()	()			
	5132 5130・5131以外の肺の疾患	()	()			
その他	5133 糖尿病	()	()			
	5134 高脂血症	()	()			
	5135 胃や腸の疾患	()	()			
	5136 肝硬変症・肝不全	()	()			
	5137 腎臓・膀胱・前立腺の疾患	()	()			
	5138 白内障・緑内障など	()	()			
	5139 癌・悪性腫瘍	()	()			
【期間中の出来事】 (起きたすべてに○)			1) 転倒等 ()	()		
			2) 骨折 ()	()		
			3) 脳の発作 ()	()		
			4) 心臓発作 ()	()		
			5) 麻痺進行 ()	()		
			6) その他 ()	()		
			【期間中の退所回数】 () 回	()		
			【主な退所先】 (以下の1つに○)	()		
			1) 自宅等 ()	()		
			2) 医療機関 ()	()		
			3) その他 ()	()		
			【期間中死亡の場合】 年 月 日 死亡	()		
			主原因臓器 (以下の1つに○)	()		
			1) 脳 ()	()		
			2) 心臓 ()	()		
			3) 癌等 ()	()		
			4) その他 ()	()		
内服	5140 平成16年3月31日の内服薬剤費	_____円	5143 検査	平成16年3月31日の検査費		
処置	5141 平成16年3月31日の喀痰吸引	()				
	5142 平成16年3月31日の洗腸や排便	()	一あれば(○)		_____円	

調査項目の見直しと検討に際しては、次のような意見が出された。

- ・ 老健施設における「標準的医療」とは何かを確認する目的で、入所者の基礎疾患、合併症等のデータを把握する必要がある。
- ・ 利用者の診断名等を尋ねる調査項目を追加することを検討してはどうか。
- ・ ICDコードとの連携を視野に、老健施設の簡易病名コードを作成する方向で検討してはどうか。このための基礎データを収集する必要があるのではないか。
- ・ 調査実施に際しては、主な診断名を具体的に記載する欄を設ける必要があるのではないか。
- ・ 「疾患」と「投薬を受けている疾患」は区別する必要があるのではないか。
- ・ 一種類の薬剤でコントロールできるケースと複数の薬剤を要する者の別も把握する必要があるのではないか。
- ・ 疾患の中に「低栄養」を加える必要があるのではないか。

これらの意見をもとに、作業部会を中心に調査項目を選定した。この際「ICDコードとの連携を視野に、老健施設の簡易病名コードを作成する」ことを目的と捉え、まずは以下に列記する11の疾患群を設定した。

<疾患群>

- A 認知症
- B 呼吸器疾患
- C 中枢性疾患
- D 心・循環器疾患
- E 代謝・内分泌疾患
- F 筋・骨格系疾患
- G 消化器系疾患
- H 腎・尿路疾患
- I 皮膚・耳鼻科疾患
- J 悪性腫瘍
- K 感染症

さらに、それぞれの疾患群について、頻出すると考えられる疾患区分を列記した次ページ以降のような調査項目を作成した。

また、治療・管理・リハビリ等の対象となっている疾患について、

- ・ 調査実施時点の疾患・診断名（あてはまるもの全て）
- ・ 主疾患（1つ）
- ・ 急性・新たに発症・受傷し、何らかの治療を行った疾患・診断名
- ・ 急性・新たな疾患等の転帰

について選択する方法を採用することとした。

さらに、薬剤費や検査費等の経費の多寡だけの評価だけで判断することが難しい疾患も見られることから、調査対象者の「治療行為にかかる手間のかかり度」についても調査項目に含めることとし、以下の選択肢を設定した。

<治療行為にかかる手間のかかり度>

- 1 原因疾患によらず血中酸素濃度測定や酸素投与を要する状態
- 2 喀痰の吸引が頻回に必要な状態
- 3 治療を行うためスタッフがほぼ常時そばに付き添う状態
- 4 清拭やオムツの交換を頻回に要する状態
- 5 体位交換が頻回、複数人数の介助を要する状態
- 6 末梢血管の確保が困難な状態
- 7 介護拒否や突然の暴力が見られる状態
- 8 嚥下困難により食事介助の手間がかかる状態
- 9 拒食・拒薬のある状態
- 10 せん妄状態

<疾患群に基づく疾患区分>

A 認知症	A01	アルツハイマー型認知症
	A02	脳血管性認知症
	A03	レビー小体型認知症
	A04	前頭・側頭葉型認知症（ピック病等）
	A05	まだ確定診断のついていない認知症
	A06	確定診断したが「その他」に分類される認知症
B 呼吸器疾患	B01	誤嚥性・吸引性（不顕性）肺炎
	B02	肺気腫等慢性閉塞性肺疾患
	B03	気管支喘息
	B04	気管切開状態
	B05	その他の肺疾患
C 中枢性疾患	C01	脳梗塞（片麻痺等機能障害を伴うもの）
	C02	多発性脳梗塞等、麻痺を伴わないもの
	C03	脳出血（片麻痺等機能障害を伴うもの）
	C04	パーキンソン病・脊髄小脳変性症等の神経疾患
	C05	うつ病
	C06	その他の脳血管・脳神経疾患
	C07	その他の精神疾患
D 心・循環器疾患	D01	高血圧症
	D02	慢性心不全
	D03	心筋梗塞・狭心症
	D04	閉塞性動脈硬化症
	D05	心房細動等治療を要する不整脈
	D06	ペースメーカー等装着者
E 代謝・内分泌疾患	E01	糖尿病
	E02	脂質異常症
	E03	高尿酸血症
	E04	甲状腺機能障害
	E05	その他の代謝・内分泌疾患
F 筋・骨格系疾患	F01	脊椎疾患（脊損・脊椎間狭窄症、変形性脊椎症等）
	F02	変形性関節症（股関節・膝関節・手関節等）
	F03	骨粗しょう症
	F04	関節リウマチ等の膠原病
	F05	手術を要した骨折（大腿骨頸部骨折等）
	F06	保存的治療にて対応した骨折（部位を記入）
	F07	その他、疼痛管理を要した筋・骨格系疾患
G 消化器疾患	G01	急性胃・腸疾患（消化性潰瘍を含む）
	G02	吐血・下血等消化管出血
	G03	慢性肝炎・肝硬変
	G04	膵・胆道系の良性疾患
	G05	急性腹症
	G06	経鼻胃管や胃瘻等経管栄養状態
H 腎・尿路疾患	H01	急性尿路感染症
	H02	神経因性膀胱、尿路結石等を伴う慢性尿路感染症
	H03	前立腺肥大症
	H04	慢性腎不全
	H05	人工透析を行っている状態
	H06	尿道カテーテル留置や人工膀胱状態

I 皮膚・耳鼻科疾患	I01	蜂窩織炎・白癬等感染症
	I02	褥創
	I03	アレルギー性皮膚疾患
	I04	白内障
	I05	緑内障
	I06	麦粒腫・結膜炎等眼疾患
	I07	中耳炎、外耳道炎等耳疾患
	I08	その他の切創、挫創等
J 悪性腫瘍	J01	消化器（胃・肝・胆・膵・腸管・食道）の悪性腫瘍
	J02	呼吸器の悪性腫瘍
	J03	腎・尿路の悪性腫瘍（前立腺を含む）
	J04	生殖器の悪性腫瘍（子宮癌等）
	J05	骨・筋・皮膚・舌・乳腺・内分泌関連の悪性腫瘍
	J06	血液、その他の悪性腫瘍
K 感染症	K01	インフルエンザ
	K02	ノロウイルス
	K03	MRSA等保菌者・感染者
	K04	HBs抗原、HCV抗体等肝炎ウイルスキャリア
	K05	疥癬
	K06	その他の感染症

Ⅲ. 調査の実施

1. 調査の概要

(1) 調査の設計

①調査対象

アンケート調査は、全国老人保健施設協会会員施設（約 3,350 施設）から抽出した調査対象施設（229 施設）に協力を依頼し、調査票を郵送により配布・回収した。

②調査対象者

調査に際しては、調査対象施設利用者の無作為抽出 20 名（サンプル想定 4,000 症例）について、本研究事業班で作成した調査票を使用し、調査対象者の主要基礎疾患（複合的な疾患群）と医療資源消費の実態に関する調査を依頼した。

なお、調査対象者の抽出に際しては、老健施設入所利用者との比較のため、通所利用者についても調査対象に含めることとし、概ね入所利用者 10 名、通所利用者 10 名を無作為抽出してもらうこととした。

③調査実施者

調査実施者については、看護職・介護福祉士・リハビリ専門職のいずれかで、これまでに高齢者の定型的なアセスメントを行った経験者に記入を依頼した。ただし、医療必要度、基礎疾患等の状況については、調査対象施設の医師等、医療職に相談のうえ記入してもらうこととした。

(2) 回収状況

調査対象 229 施設のうち、196 施設から計 2,393 票の有効回答を得た。回収状況は以下のとおりであった。

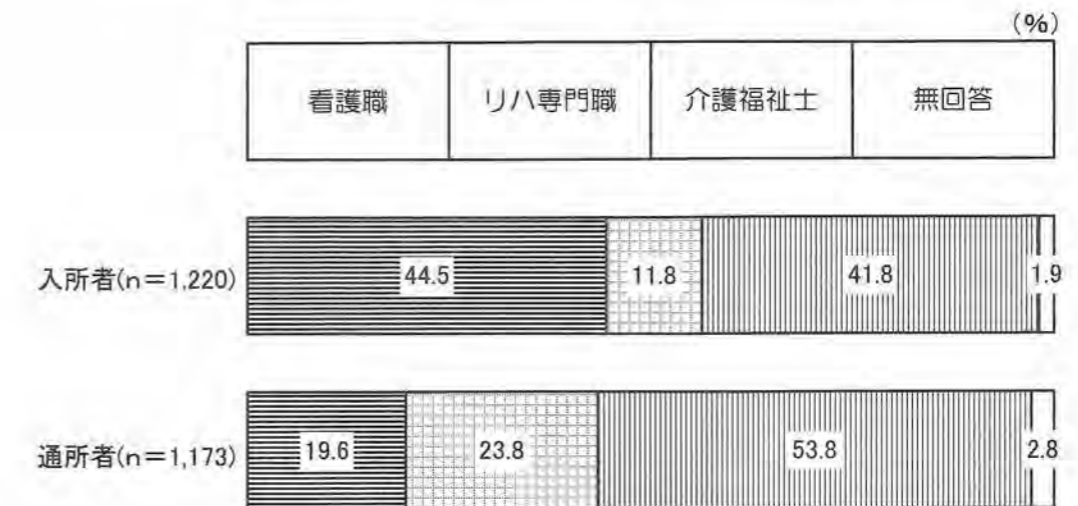
利用区分	集計対象数
入所利用者	1,220
通所利用者	1,173
合計	2,393

2. 調査結果

(1) 調査者のプロフィール

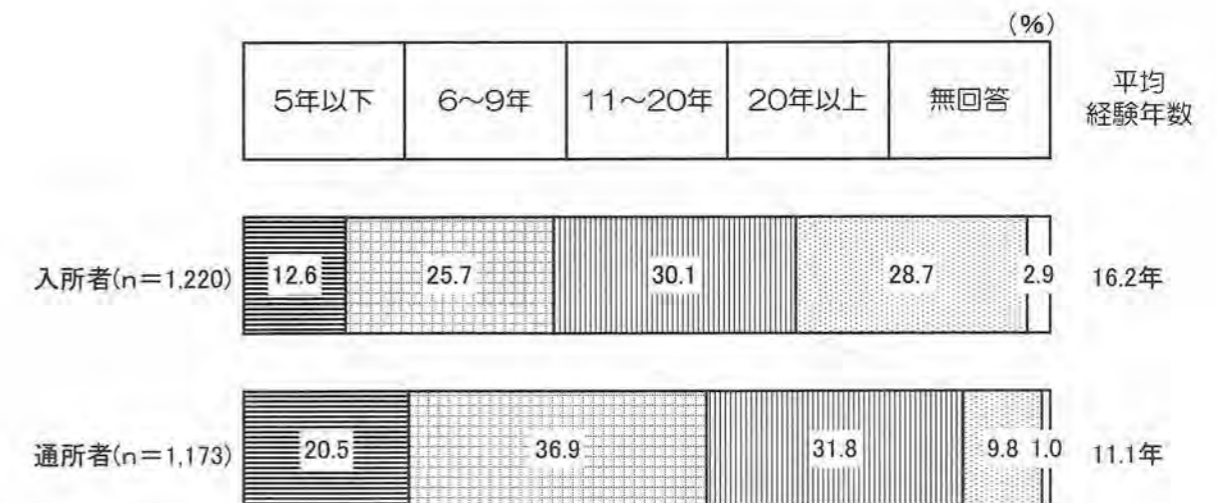
①職種

職種は、入所者の場合は「看護職」（44.5%）と「介護福祉士」（41.8%）が多くなっているが、通所者の場合は「介護福祉士」（53.8%）が半数以上となっている。



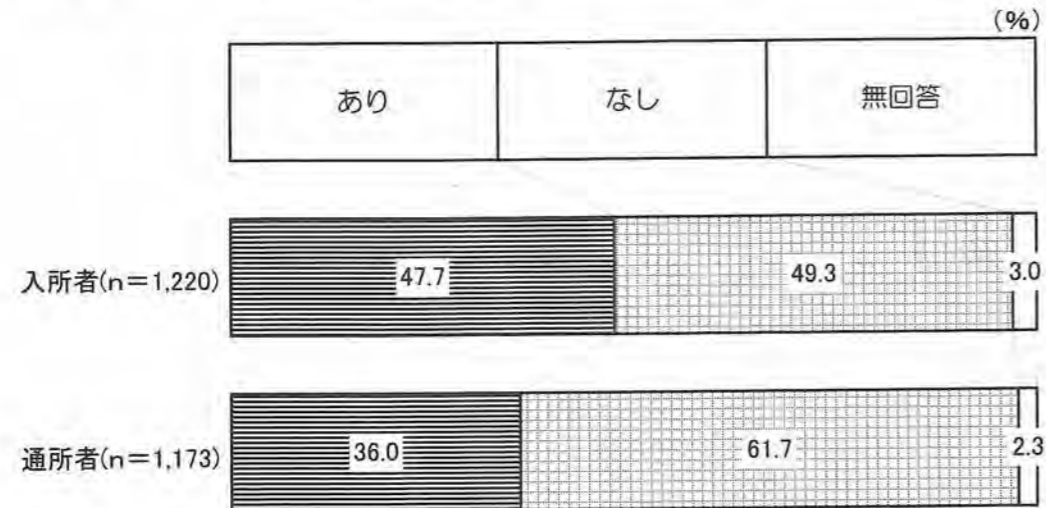
②職種の経験年数

職種の経験年数は、入所者の場合は平均で 16.2 年、通所者の場合は平均 11.1 年となっている。



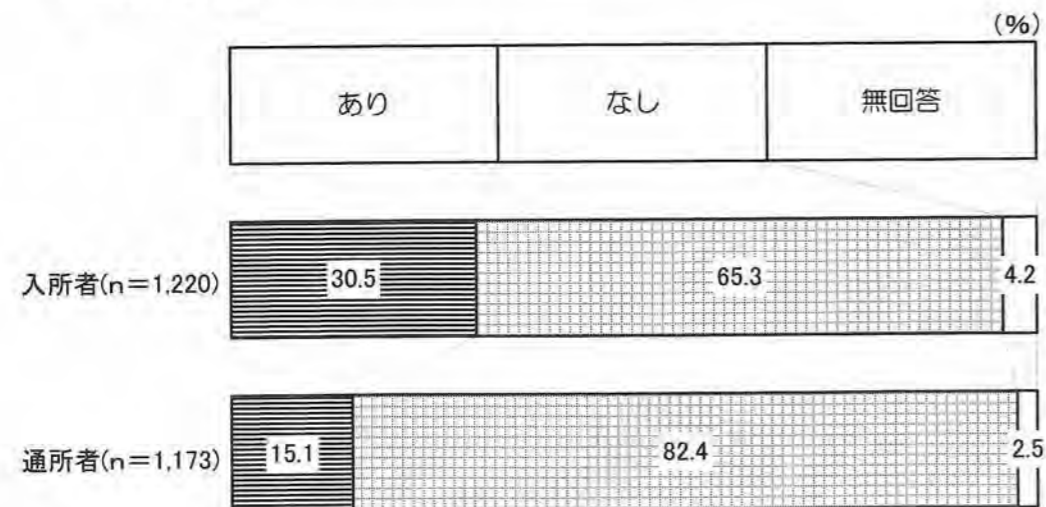
③介護支援専門員資格の有無

介護支援専門員の資格については、入所者の場合は「あり」が47.7%と半数近いが、通所者の場合は36.0%とやや少ない。



④要介護認定調査の経験の有無

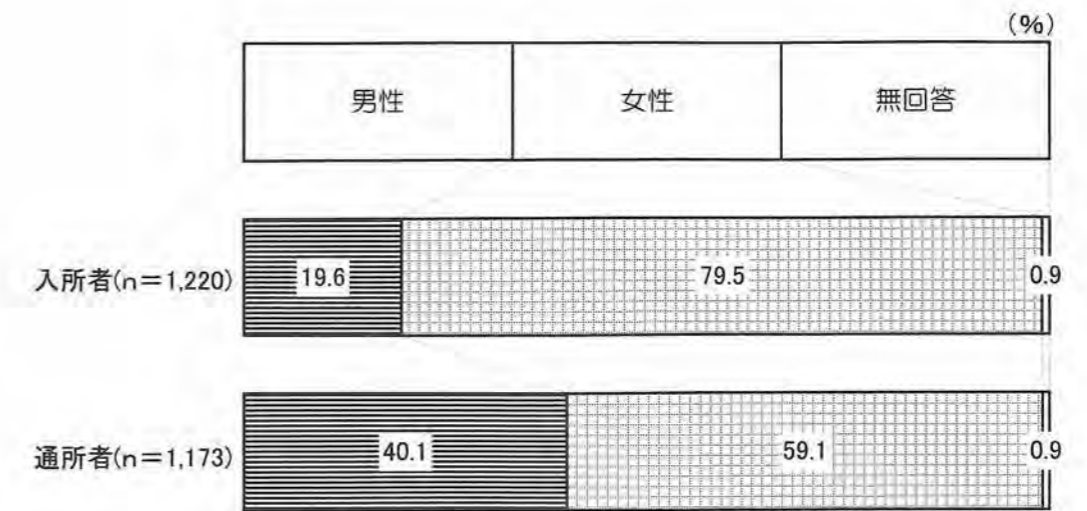
要介護認定調査の経験は、入所者の場合は「あり」が3分の1、通所者の場合は1割強となっている。



(2) 調査対象者のプロフィール

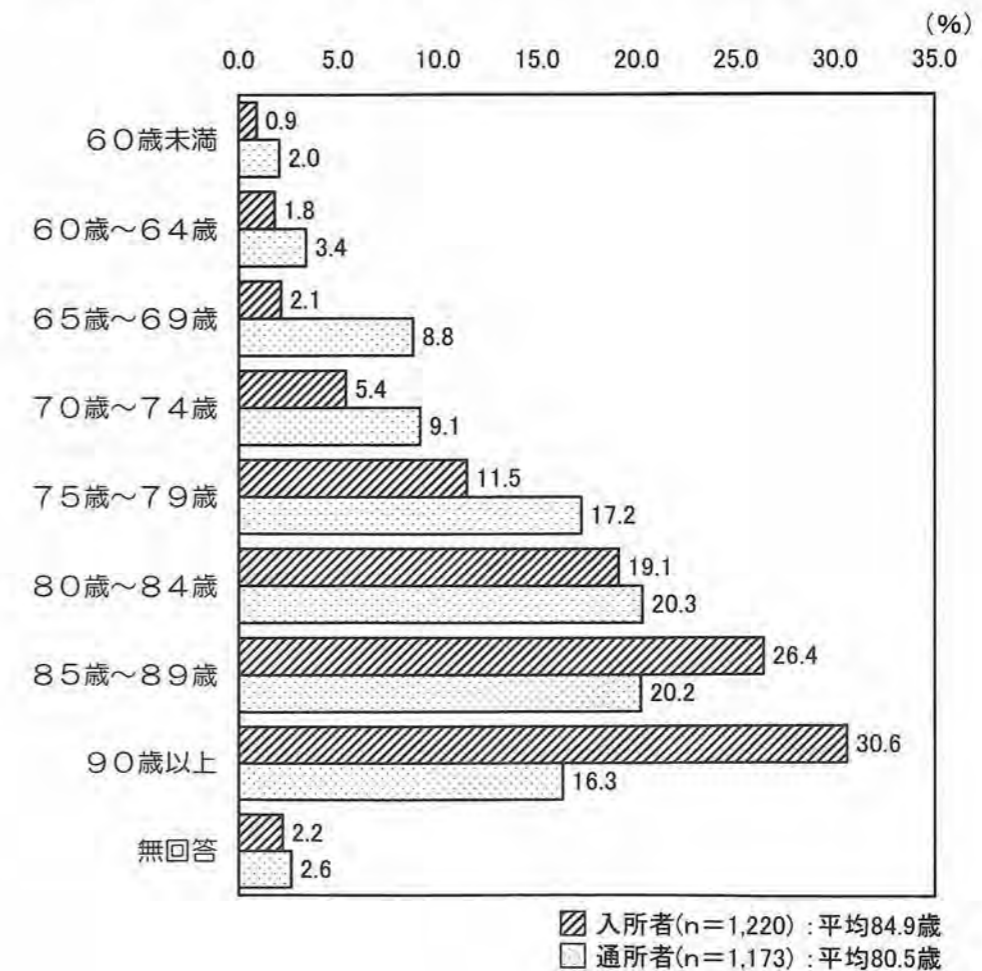
①性別

性別は、入所者は「女性」が8割を占めるのに対し、通所者は6割となっている。



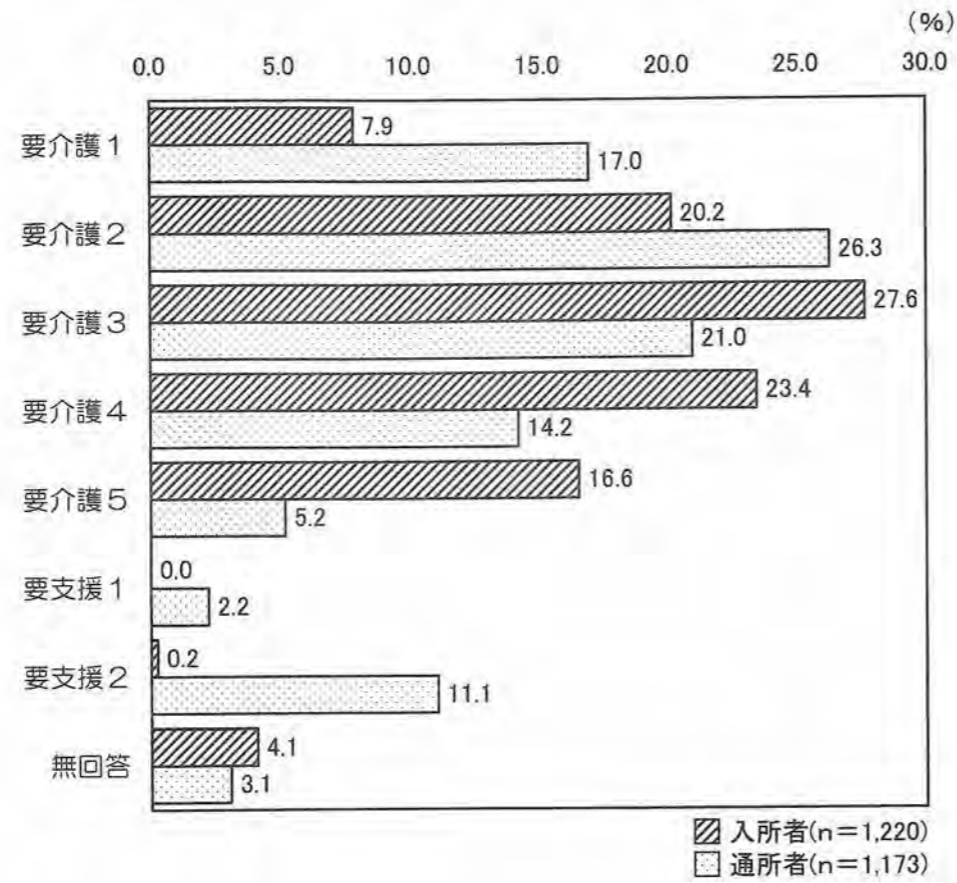
②年齢

入所者の平均年齢は84.9歳、通所者の平均年齢は80.5歳となっている。



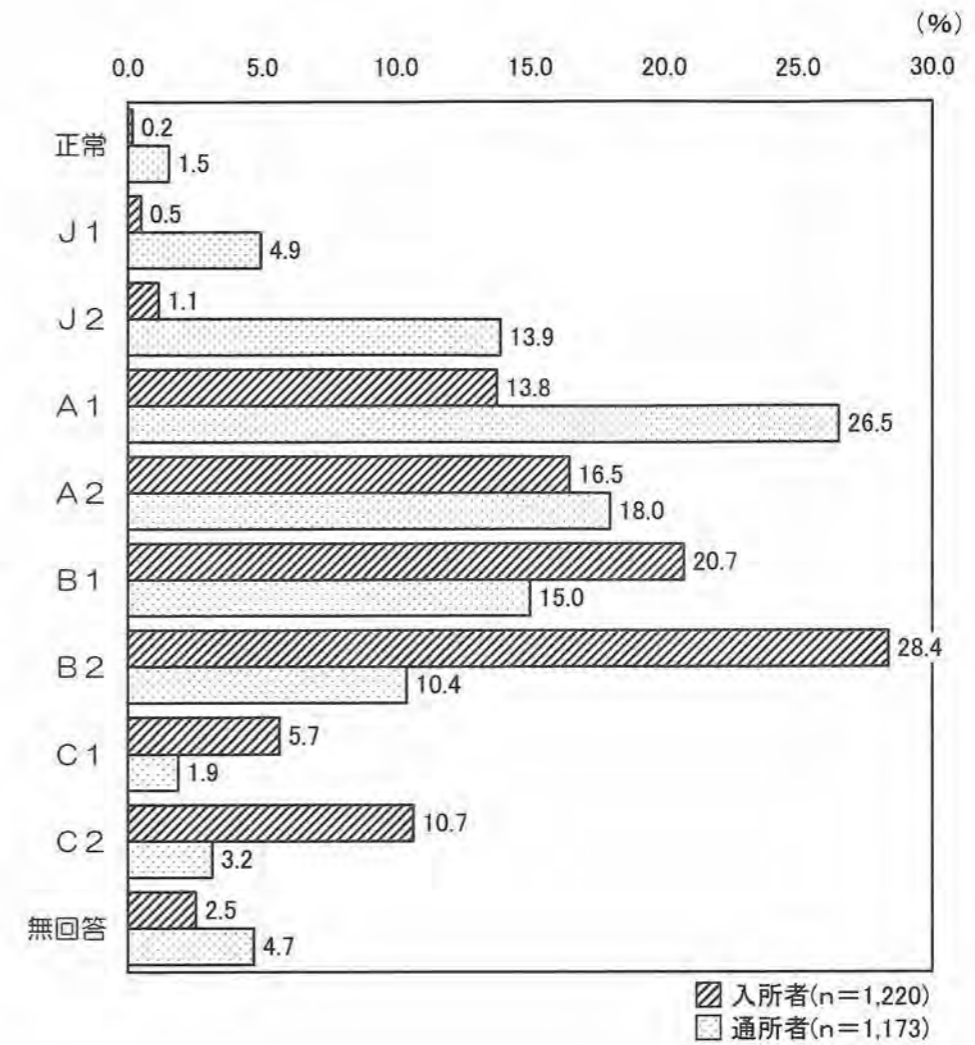
③要介護度

入所者の要介護度は「要介護3」が27.6%と最も多く、「要介護4・5」は40.0%である。通所者は「要介護2」が26.3%と最も多く、「要支援1・2」も13.3%いる。



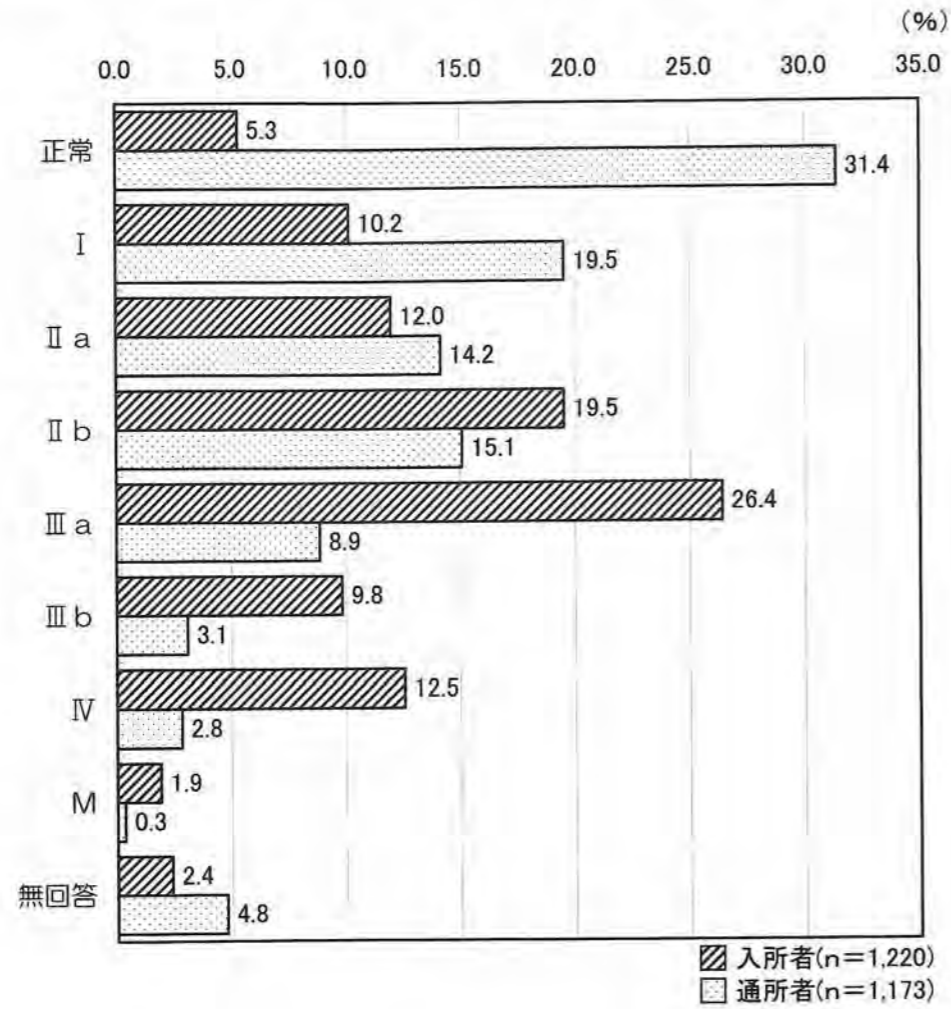
④障害高齢者の日常生活自立度

障害高齢者の日常生活自立度をみると、入所者の場合は「B」が49.1%と半数を占めている。一方、通所者の場合は「A」が44.5%となっている。



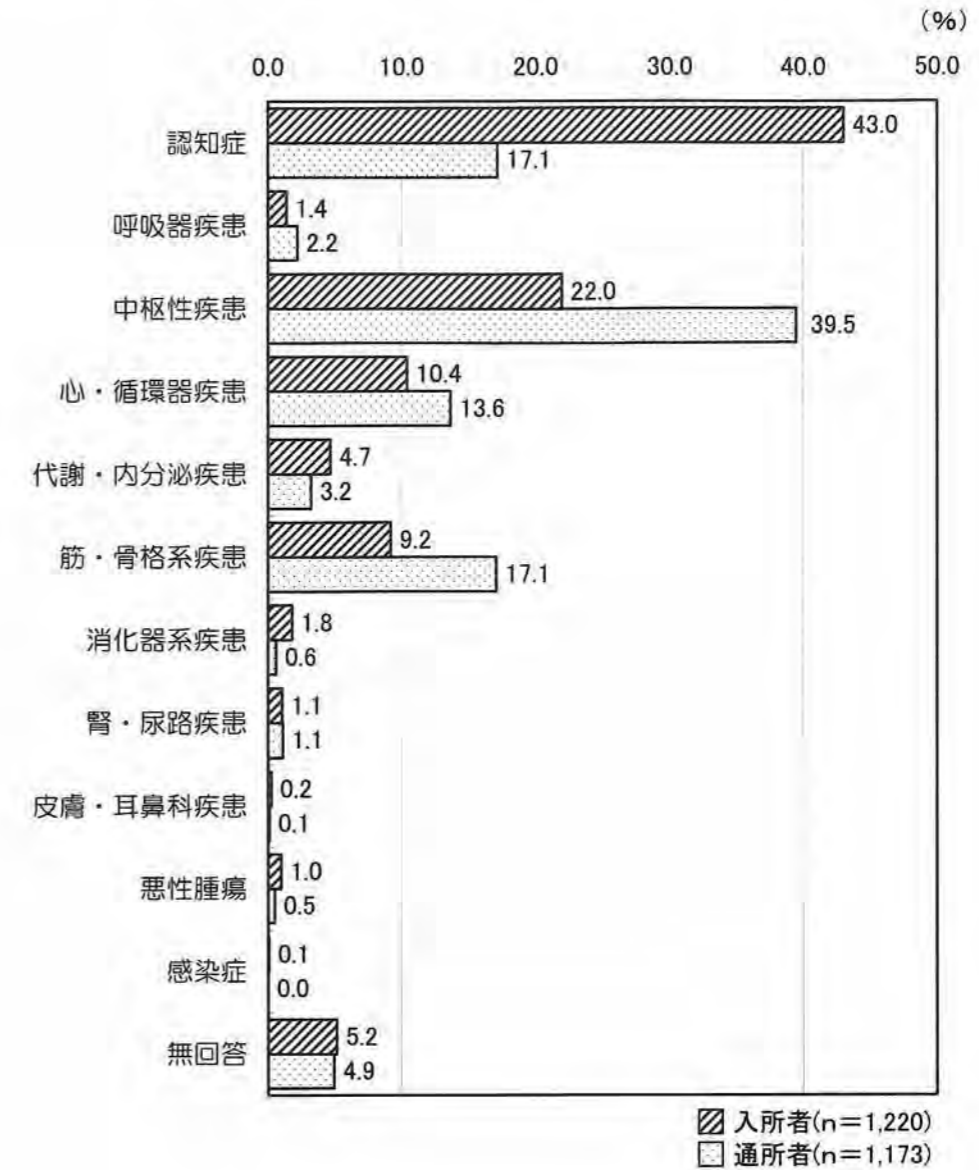
⑤ 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度をみると、入所者の場合は「Ⅱ」が31.5%、「Ⅲ」が36.2%と多く、「正常」は5.3%にとどまっている。通所者の場合は「正常」が31.4%と3割を占め、ついで「Ⅰ」が19.5%で続いている。



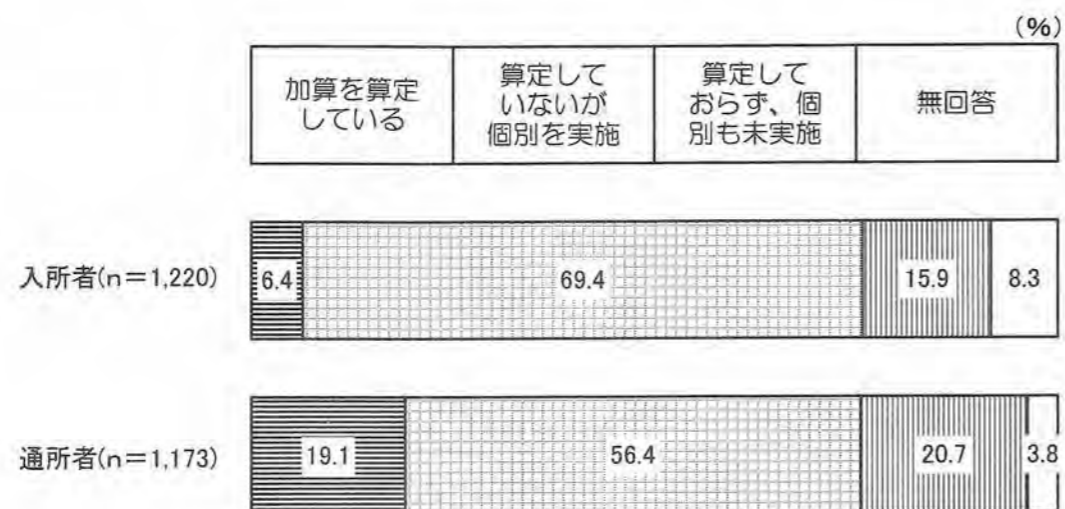
⑥ 主な疾患

主な疾患をみると、入所者の場合は「認知症」が43.0%、通所者の場合は「中枢性疾患」が39.5%と多くなっている。



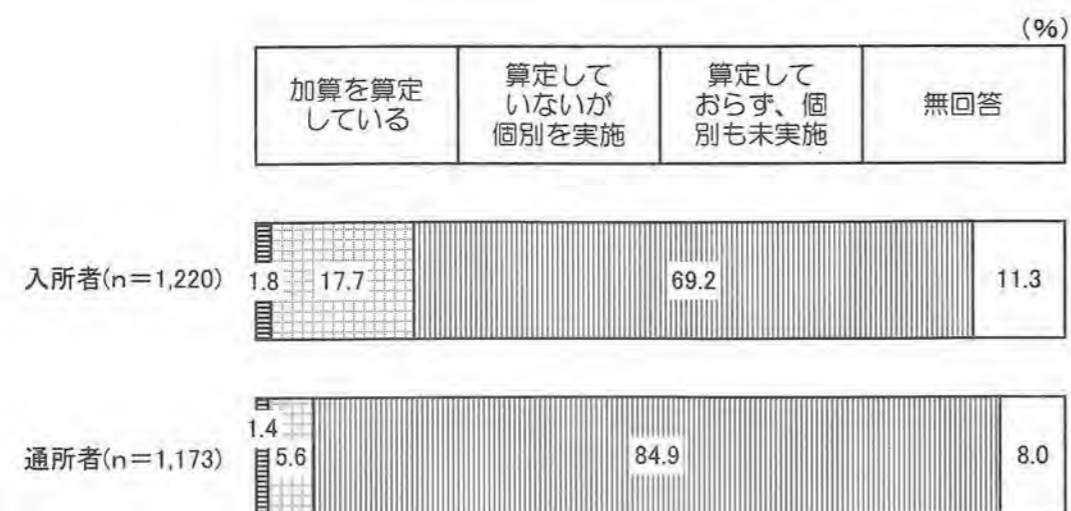
⑦短期集中リハビリテーションの実施(ADL)

短期集中リハビリテーションの実施については、入所者の場合は「加算を算定している」は6.4%にとどまり、「算定していないが、個別を実施」が7割を占めている。一方、通所者では「加算を算定している」が19.1%と2割近くみられ、「算定していないが、個別を実施」は56.4%となっている。



⑧認知症短期集中リハビリテーションの実施

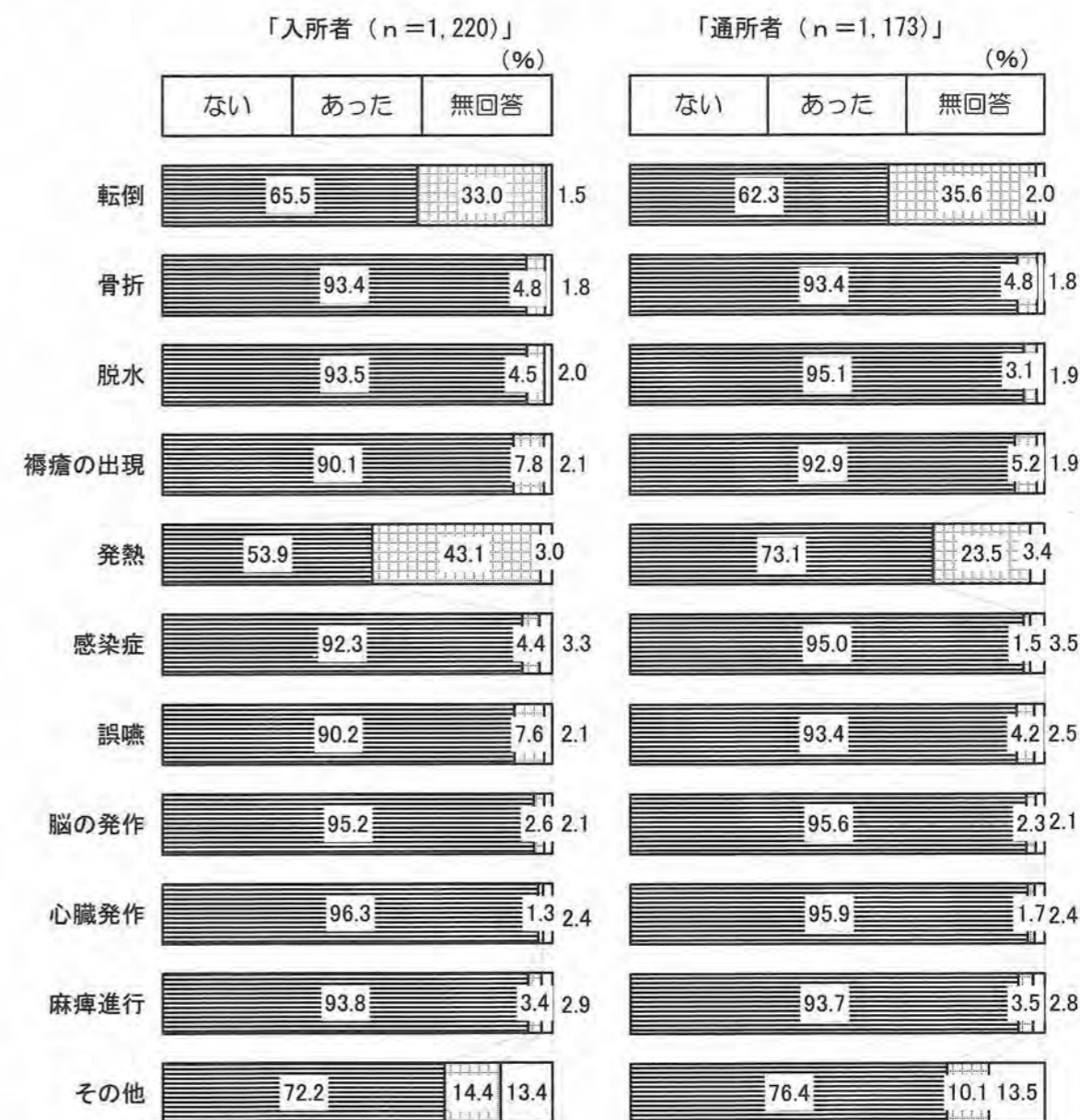
認知症短期集中リハビリテーションの実施については、入所者の場合は「算定していないが、個別を実施」が17.7%、「算定しておらず、個別も未実施」が69.2%となっている。一方、通所者では「算定しておらず、個別も未実施」が84.9%と多くなっている。



(3) 調査対象者の調査実施期間における変化

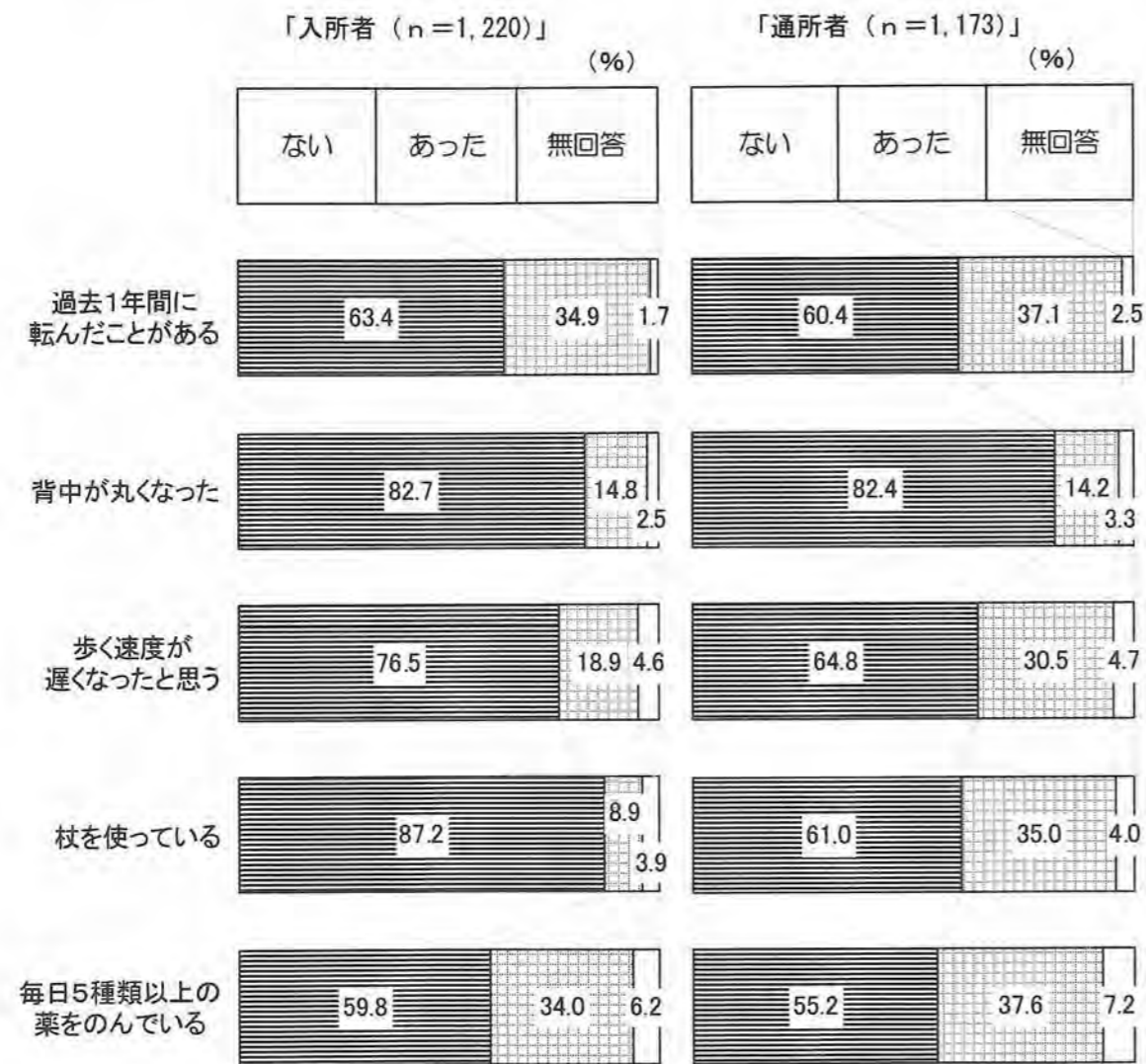
①疾患の発症・悪化の有無

過去半年間に疾患の発症・悪化が「あった」とする回答が10%を超えるのは、入所者、通所者ともに「転倒」「発熱」「その他」である。



②身体にかかわる変化

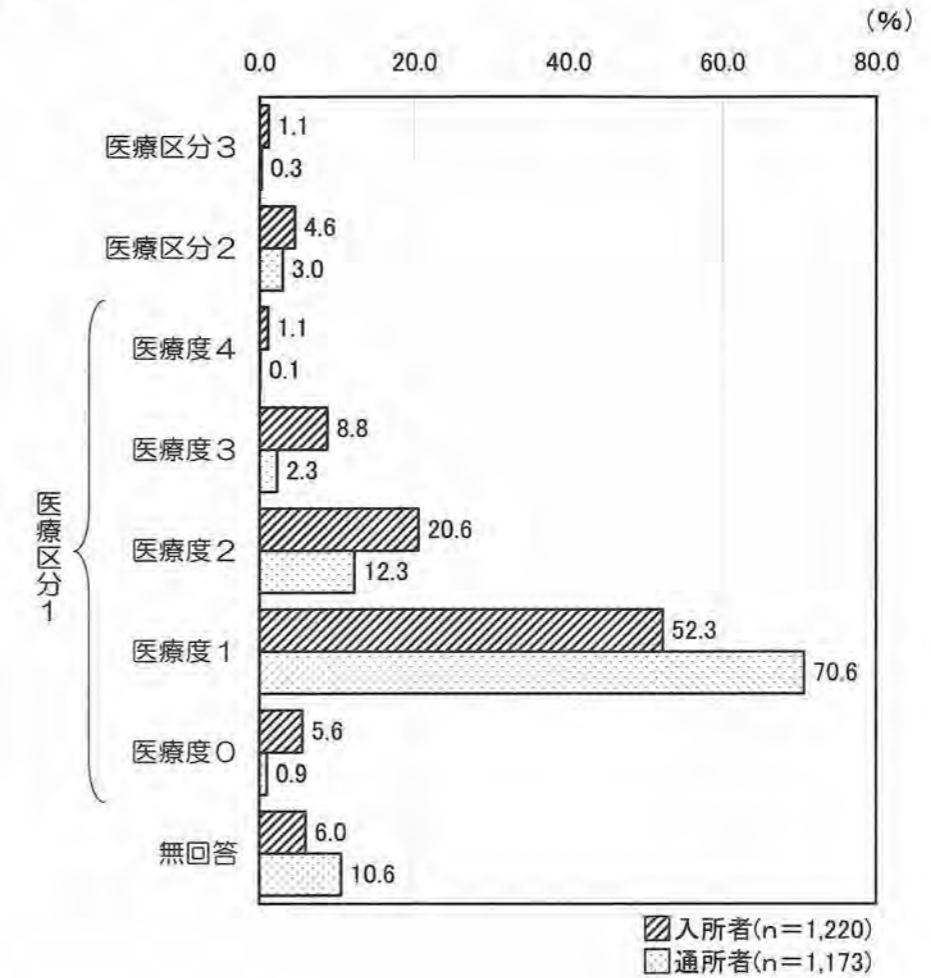
過去1年間に身体にかかわる変化が「あった」とする回答が3割以上と多いのは、入所者では「過去1年間に転んだことがある」「毎日5種類以上の薬を飲んでいる」の2項目、通所者では「過去1年間に転んだことがある」「歩く速度が遅くなったと思う」「杖を使っている」「毎日5種類以上の薬を飲んでいる」の4項目があげられている。



(4) 調査対象者の医療の必要性

①調査対象者の医療度

入所者、通所者ともに「医療区分3」「医療区分2」は少なく、「医療区分1」が多くなっている。



②医療区分3の状態

医療区分3の状態は以下の通りとなっている。

	n	難病等		医療的管理・処置等		点滴等		呼吸		感染症・創傷		無回答
		スモン	神経難病等の患者	医師・看護職員が常時、監視・管理	ドレーン法	中心静脈栄養	24時間持続して点滴	酸素療法	人工呼吸器	気管切開・気管挿管	感染症	
入所者	14	0	0	8	0	0	0	2	0	0	1	3
通所者	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2

(人)

③医療区分2の状態

医療区分2の状態をみると、入所者、通所者ともに「パーキンソン病関連疾患」と「傷病等によりリハビリが必要」が10人前後と多くなっている。また、入所者では「うつ症状に対する治療」も11人となっている。

(人)

	n	難病等						医療的管理・処置等		点滴等	
		パーキンソン病関連疾患	多発性硬化症	筋萎縮性側索硬化症	筋ジストロフィー症	その他の難病	神経難病等の患者	基本診療料の施設基準等の患者	褥創に対する治療を実施	抹消循環障害の下肢末端開放創治療	脱水に対する治療
入所者	56	9	0	0	0	0	0	3	0	2	0
通所者	35	10	1	1	0	2	0	1	0	0	0

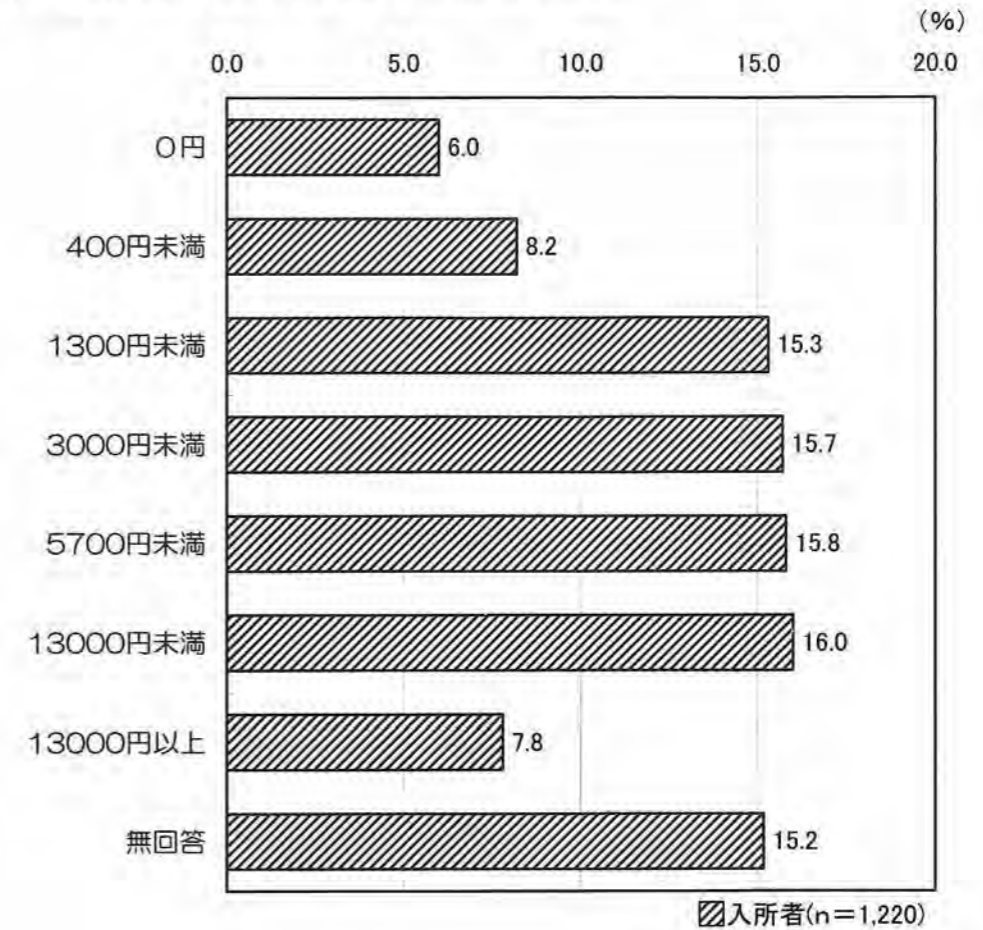
	n	呼吸		感染症・創傷				リハビリテーション		
		1日8回以上の喀痰吸引	気管切開又は気管内挿管	慢性閉塞性肺疾患	経鼻胃管や胃瘻等の経腸栄養	肺炎に対する治療	尿路感染症に対する治療	創傷などに対する治療	傷病等によりリハビリが必要	脊髄損傷
入所者	56	0	0	0	3	1	2	3	15	0
通所者	35	0	0	0	0	0	0	1	17	1

	n	精神			その他				無回答
		せん妄に対する治療	うつ症状に対する治療	他社に対する暴行が毎日認められる	頻回の血糖検査を実施	消化管等の体内からの出血	悪性腫瘍	人工腎臓、持続緩徐式血液濾過等	
入所者	56	0	11	0	2	0	0	0	5
通所者	35	0	1	0	0	0	0	0	0

(5) 1ヶ月間にかかった薬剤費、検査費

①12月1ヶ月の定期薬

入所者のうち、12月の1ヶ月間に定期薬がかかった人の割合は78.8%となっている。かかった人の平均費用は5,187円となっている。なお、標準偏差が平均値を上回っており、費用のばらつきが大きいことが示されている。

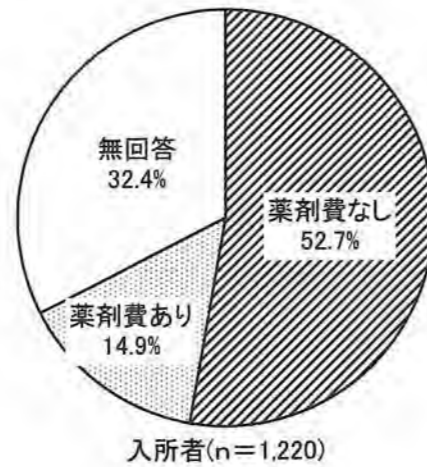


<定期薬がかかった人の費用の基本統計量>

n	962
平均値	5,187
中央値	3,000
最頻値	420
標準偏差	7,492
最小値	6
最大値	136,120

②12月1ヶ月に急性増悪・新たな発症への対応に要した薬剤費

入所者の12月の1ヶ月間に急性増悪・新たな発症への対応に薬剤費を要した人の割合は14.9%となっている。かかった人の平均費用は1,288円となっている。

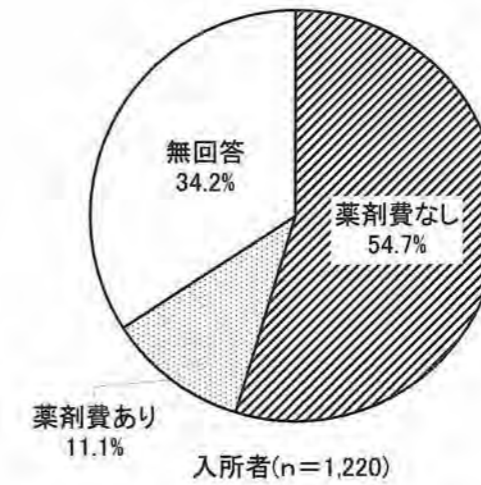


<薬剤費がかかった人の費用の基本統計量>

n	182
平均値	1,288
中央値	411
最頻値	15
標準偏差	2,961
最小値	4
最大値	24,721

③12月中のその他の薬剤関係の費用

入所者の12月中のその他の薬剤関係の費用がかかった人の割合は11.1%となっている。かかった人の平均費用は715円となっている。

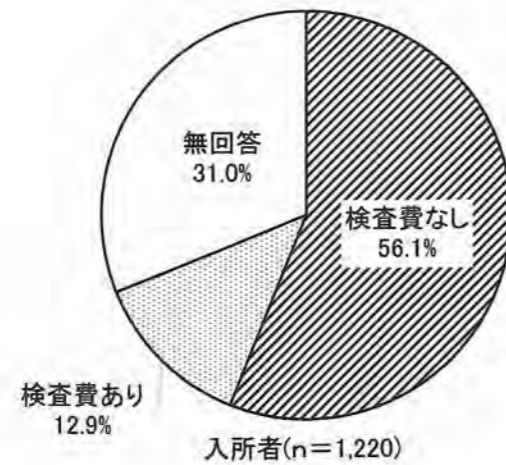


<薬剤費がかかった人の費用の基本統計量>

n	136
平均値	715
中央値	285
最頻値	110
標準偏差	1,156
最小値	6
最大値	5,408

④12月1ヶ月の検査費

入所者の12月の1ヶ月間の検査費がかかった人の割合は12.9%となっている。かかった人の平均費用は3,017円となっている。

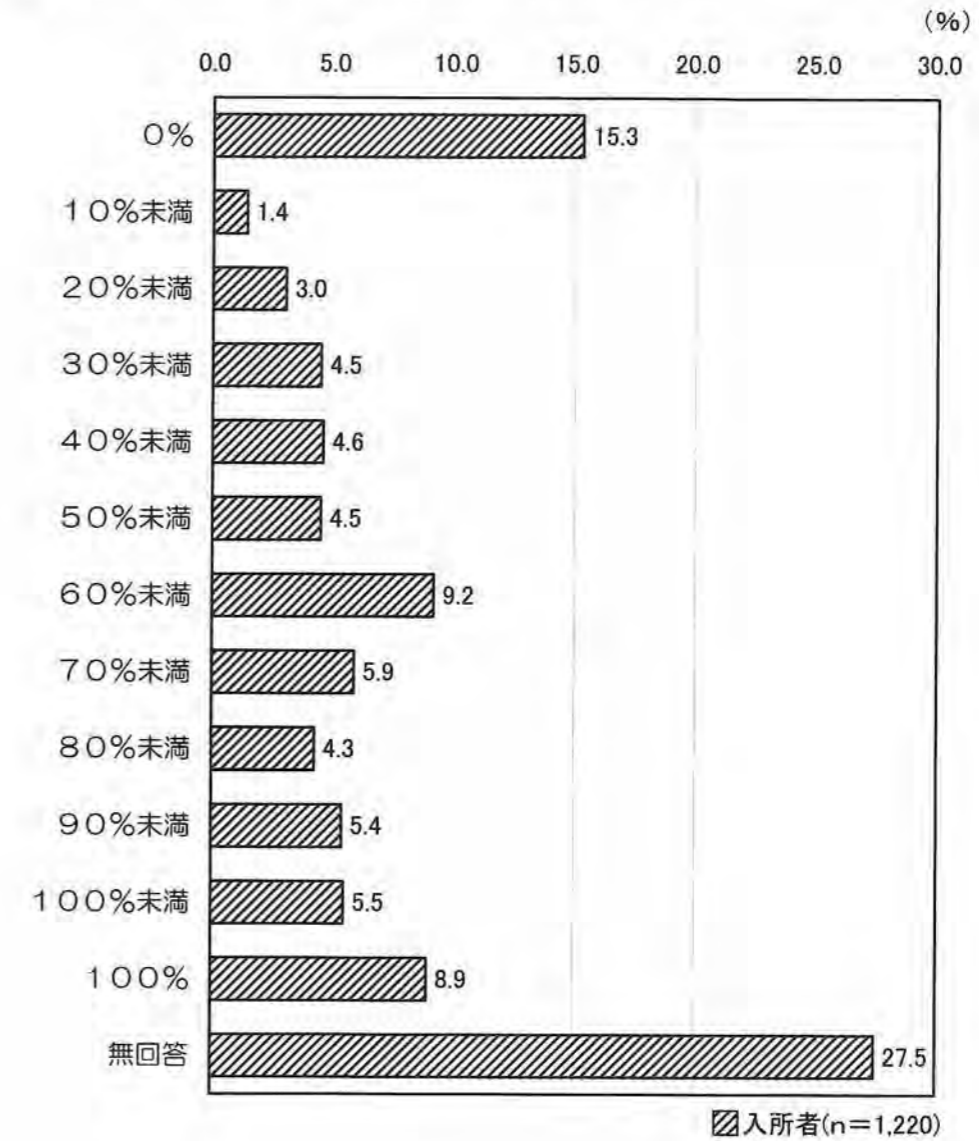


<検査費がかかった人の費用の基本統計量>

n	157
平均値	3,017
中央値	1,310
最頻値	1,000
標準偏差	4,484
最小値	22
最大値	23,780

⑤後発品(ジェネリック薬)の使用割合

後発品(ジェネリック薬)の使用割合については、「0%」から「100%」まで幅広く分布している。なお、平均は47.8%となっている。

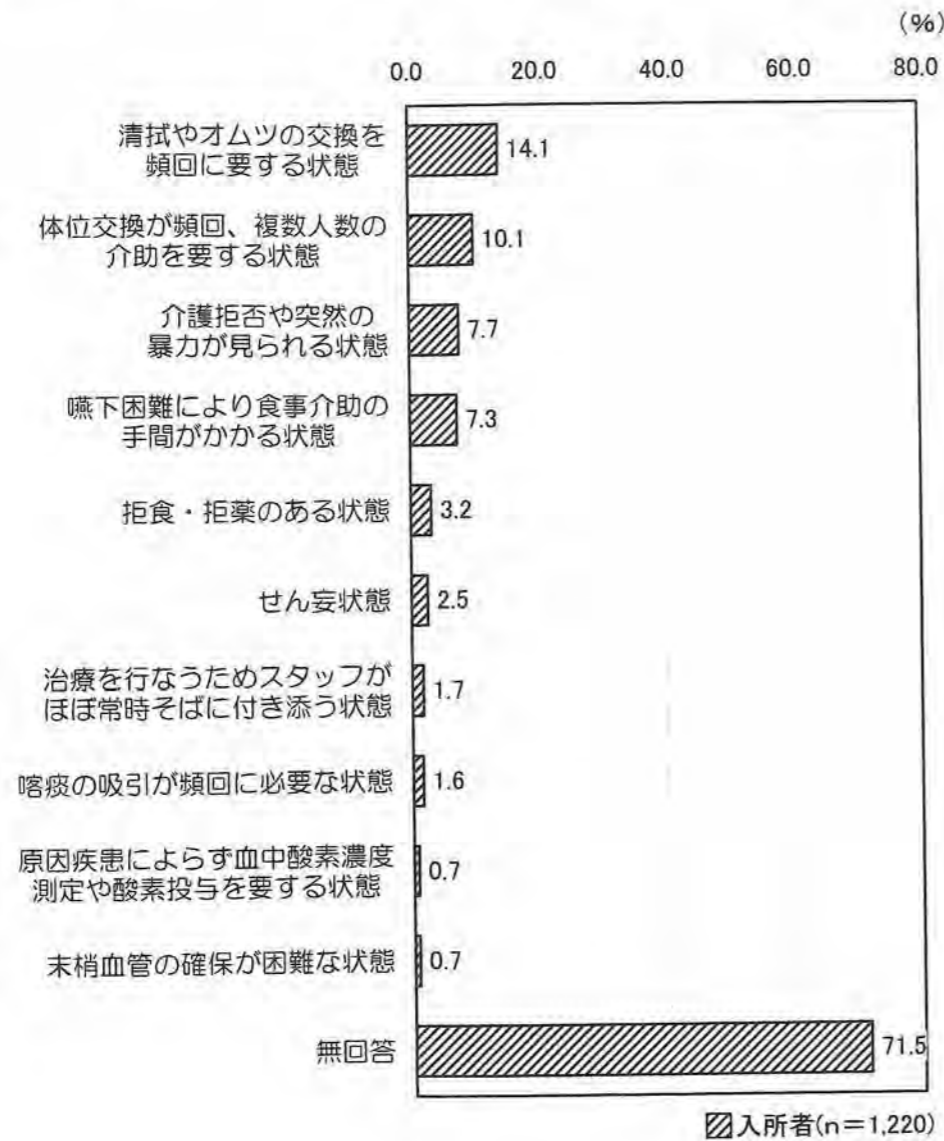


<後発品の使用割合の基本統計量>

n	885
平均値	47.8
中央値	50
最頻値	0
標準偏差	35.4
最小値	0
最大値	100

⑥調査対象者の治療行為にかかる手間のかかり度

調査対象者の治療行為にかかる手間のかかり度については、「清拭やオムツの交換を頻回に要する状態」と「体位交換が頻回、複数人数の介助を要する状態」が10%を超えている。



要介護度、障害高齢者の日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活自立度別に治療行為にかかる手間のかかり度をみたのが以下の表である。「清拭やオムツの交換を頻回に要する状態」、「体位交換が頻回、複数人数の介助を要する状態」については、要介護度、障害高齢者の日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活自立度が高くなるにしたがって手間のかかり度が高くなる傾向がみられる。

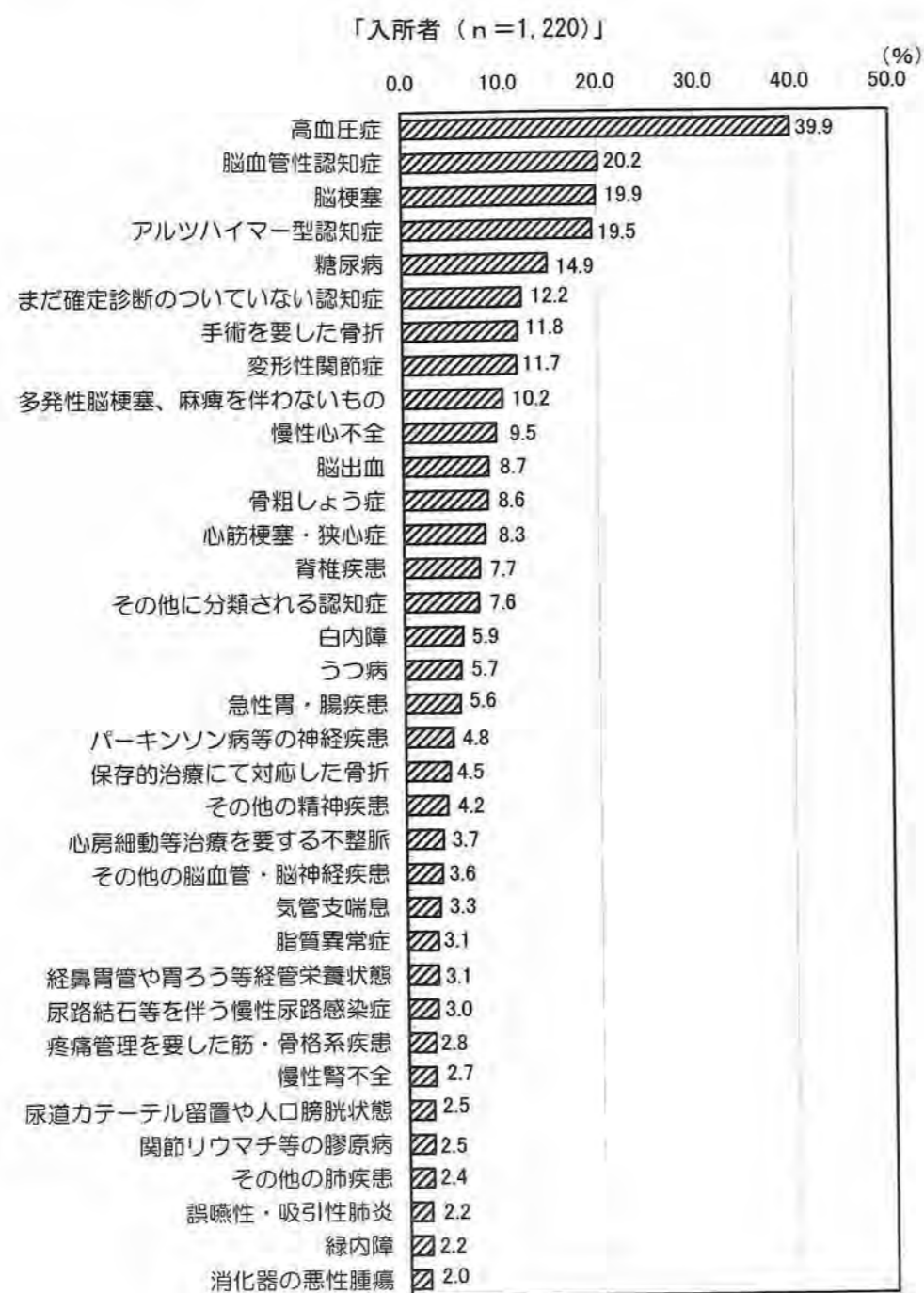
	n	清拭やオムツの交換を頻回に要する状態	体位交換が頻回、複数人数の介助を要する状態	介護拒否や突然の暴力が見られる状態	嚥下困難により食事介助の手間がかかる状態	拒食・拒薬のある状態	せん妄状態	治療を行なうためスタッフがほぼ常時そばにつき添う状態	喀痰の吸引が頻回に必要な状態	原因疾患によらず血中酸素濃度測定や酸素投与を要する状態	末梢血管の確保が困難な状態	無回答
全体	1220	14.1	10.1	7.7	7.3	3.2	2.5	1.7	1.6	0.7	0.7	71.5
【要介護度】												
要支援	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
要介護1	96	1.0	1.0	3.1	1.0	0.0	2.1	0.0	1.0	1.0	0.0	93.8
要介護2	246	3.3	0.4	7.7	0.4	2.8	2.4	1.6	0.0	0.8	0.4	85.8
要介護3	337	7.7	1.8	5.9	1.5	3.0	1.5	0.9	0.3	0.3	0.6	82.5
要介護4	286	19.6	12.9	11.5	10.1	5.6	3.5	3.5	0.7	0.7	0.7	61.2
要介護5	202	34.7	36.6	8.4	24.8	2.5	3.5	2.0	6.9	1.0	1.5	40.1
【障害高齢者の日常生活自立度】												
J	20	0.0	0.0	15.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	85.0
A	369	4.1	0.3	9.8	0.8	4.1	2.4	2.2	0.0	0.5	0.8	81.6
B	599	13.2	7.2	6.7	5.5	3.0	2.7	1.3	0.8	0.5	0.7	75.1
C	199	37.7	39.7	6.5	26.1	2.5	2.5	2.5	7.0	1.5	1.0	38.2
【認知症高齢者の日常生活自立度】												
正常	65	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	1.5	96.9
I	124	4.8	3.2	0.0	0.0	1.6	0.0	0.8	0.0	1.6	0.0	91.1
II	384	8.9	4.4	6.0	4.2	2.3	2.1	1.0	0.8	0.8	0.5	79.4
III	442	18.6	12.4	8.8	10.6	3.6	3.4	2.9	2.0	0.5	0.9	65.8
IV	153	26.1	26.1	17.6	13.1	7.2	3.9	2.0	3.3	0.0	0.7	42.5
M	23	30.4	30.4	17.4	26.1	4.3	4.3	0.0	8.7	4.3	4.3	39.1

※太字斜体は第1位の比率

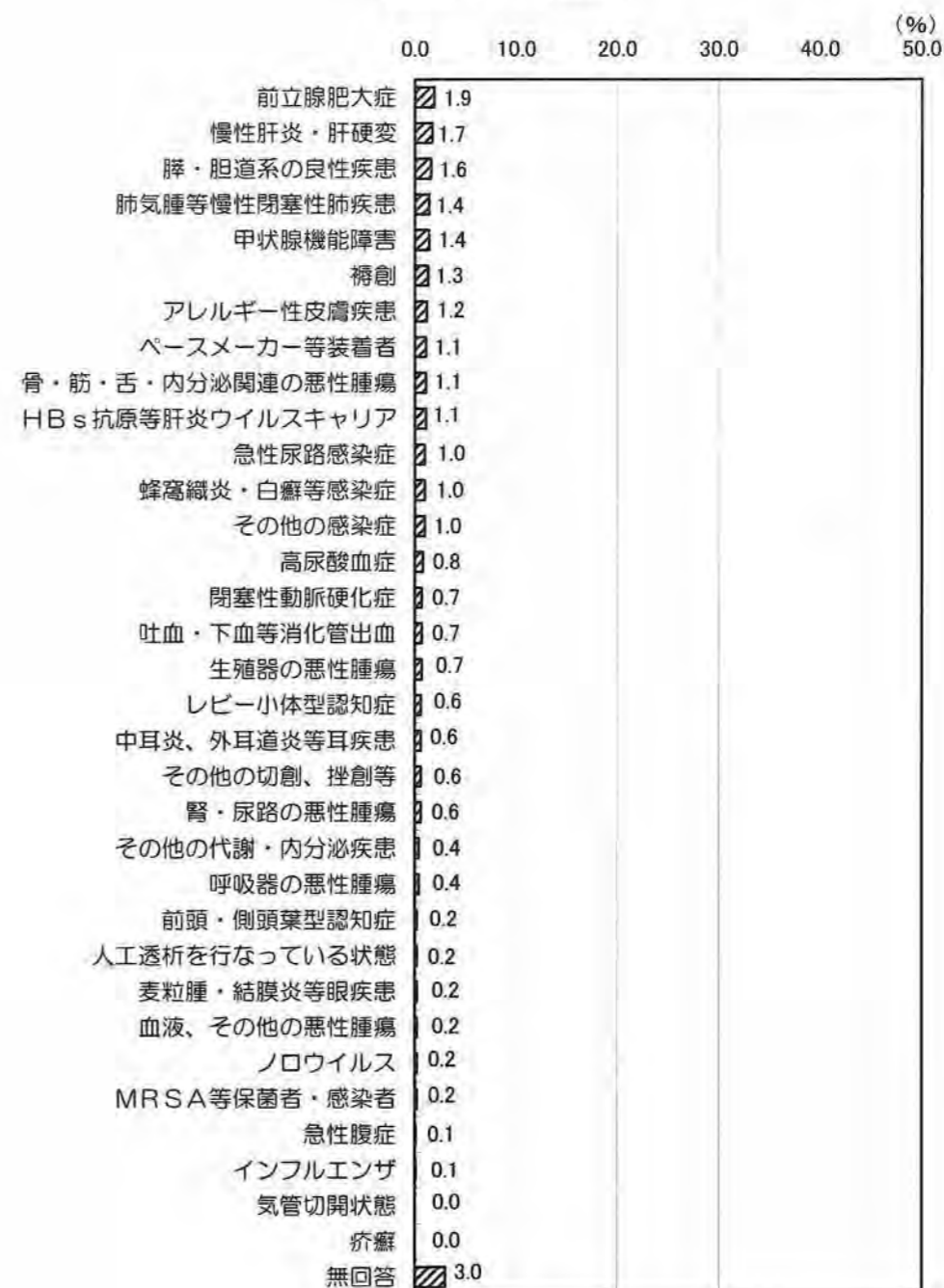
(6) 基礎疾患等の状況

① 調査時点ではあてはまる疾患(複数回答)

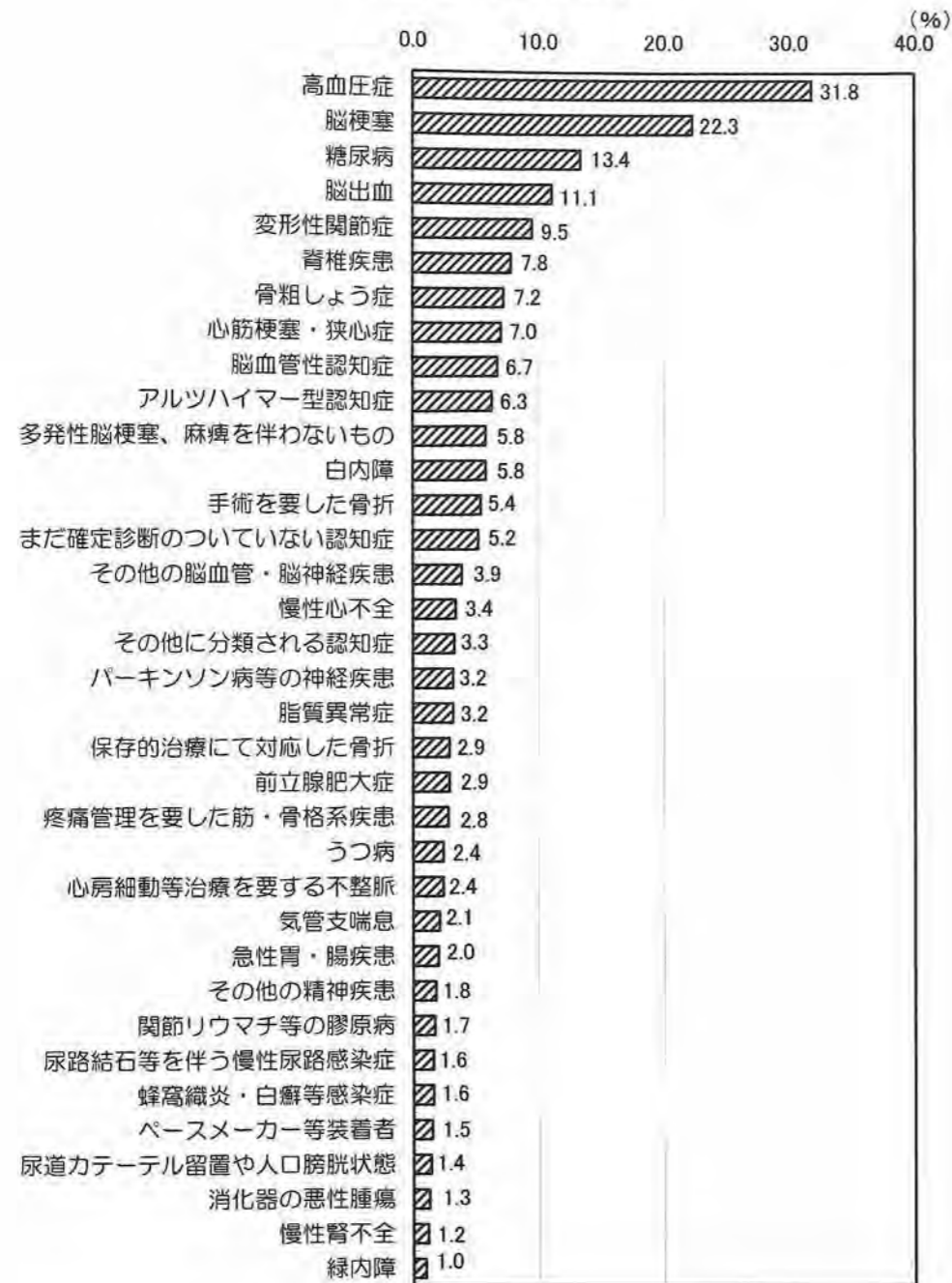
複数回答によるあてはまる疾患をみると、入所者の場合、「高血圧症」が39.9%で最も多く、以下「脳血管性認知症」「脳梗塞」「アルツハイマー型認知症」の3つがほぼ20%で続いている。通所者の場合も「高血圧症」が31.8%で最も多く、ついで「脳梗塞」が22.3%で続いている。



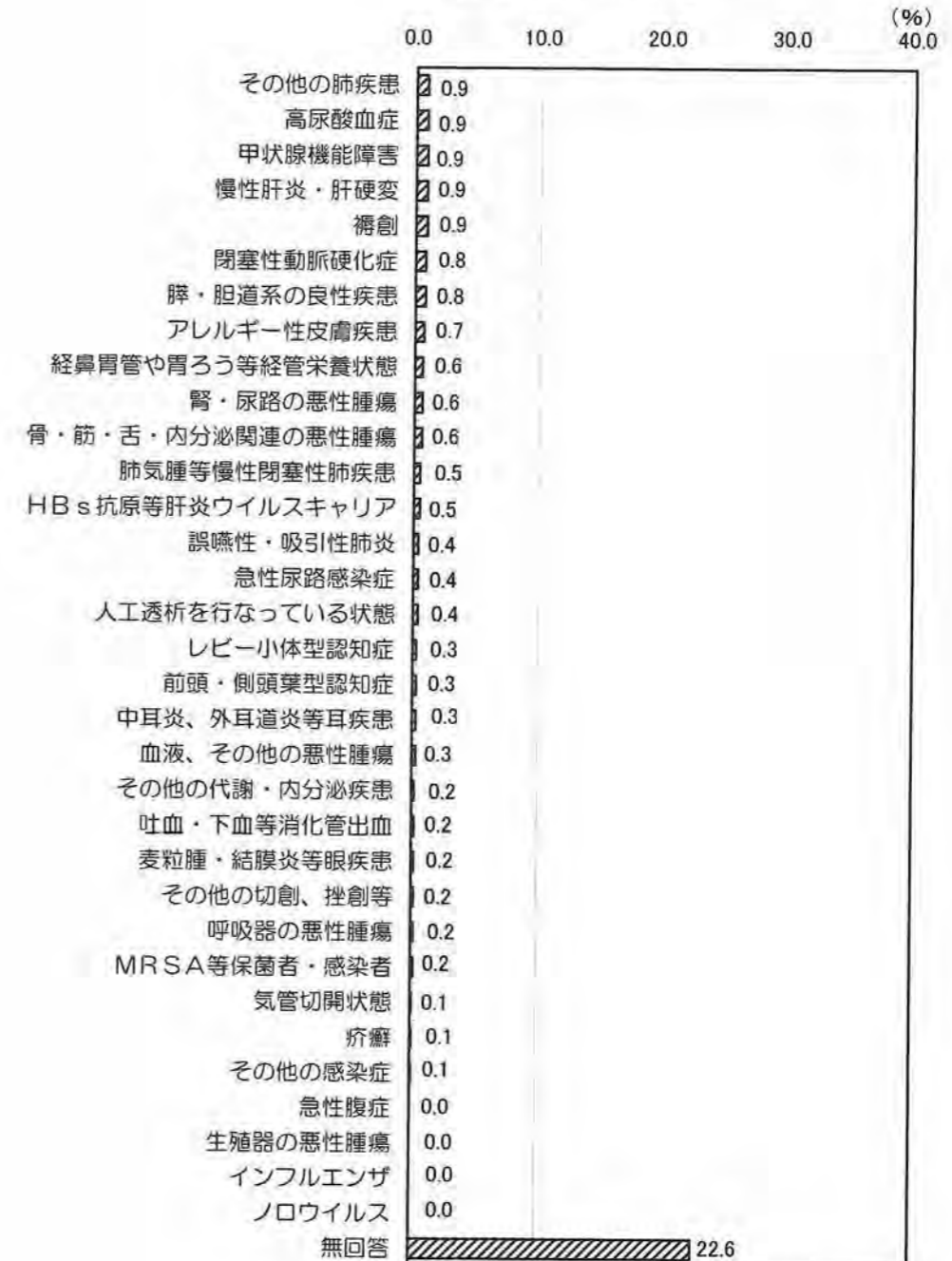
「入所者 (n=1,220)」



「通所者 (n=1,173)」

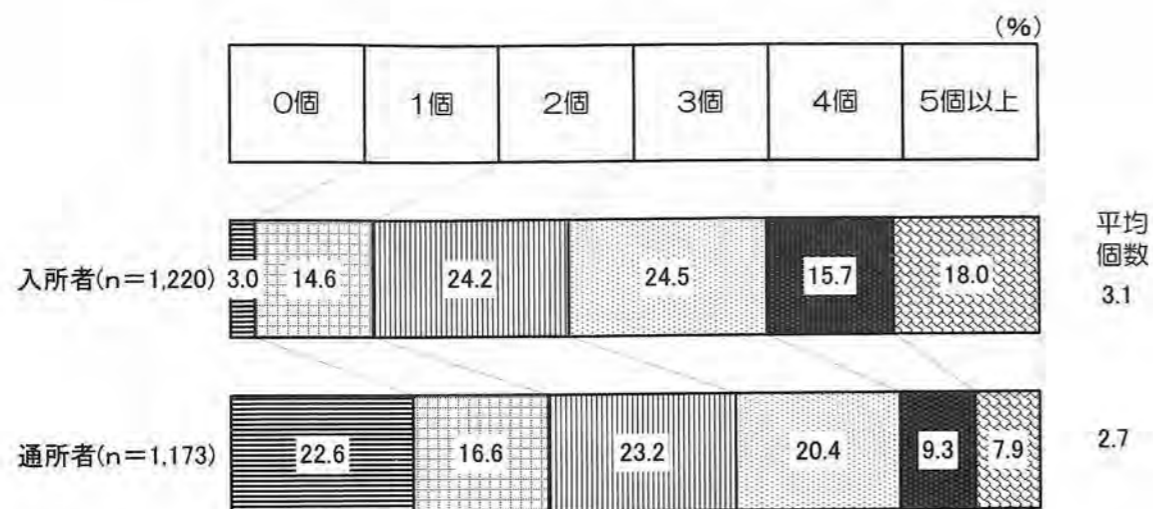


「通所者 (n=1,173)」



<調査時点であてはまる疾患の個数>

複数回答による調査時点であてはまる疾患の個数をみると、入所者の場合は「2個」「3個」「5個以上」が2割前後となっており、平均個数は3.1となっている。一方、通所者の場合は「0個」「2個」「3個」が約2割となっており、平均個数は2.7となっている。



<12月の定期薬の費用別あてはまる疾患(複数回答)>

12月の定期薬の費用別に入所者の複数回答による調査時点であてはまる疾患と疾患の平均個数をみたのが以下の表である。基本的にかかった費用が高額になるにしたがって、疾患の平均個数も多くなっている。

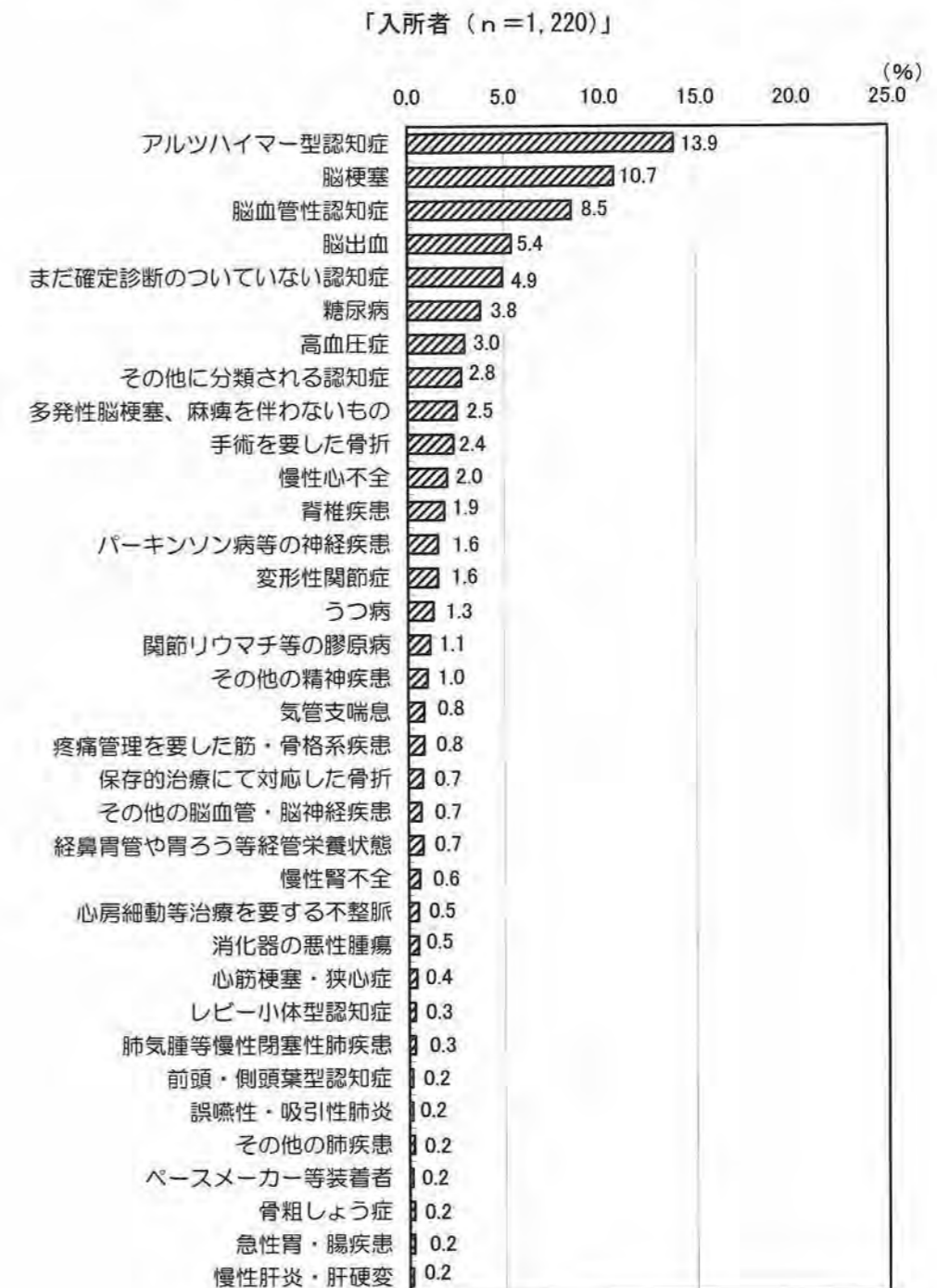
	全体	400円未満	1300円未満	3000円未満	5700円未満	13000円未満	13000円以上
n	1220	100	187	192	193	195	95
高血圧症	39.9	26.0	43.3	41.1	45.6	50.8	48.4
脳血管性認知症	20.2	17.0	25.1	21.4	18.7	22.1	12.6
脳梗塞	19.9	18.0	19.3	20.8	20.2	24.6	21.1
アルツハイマー型認知症	19.5	30.0	19.8	19.8	17.6	17.4	27.4
糖尿病	14.9	10.0	12.8	7.8	16.6	20.5	21.1
まだ確定診断のついていない認知症	12.2	14.0	14.4	12.5	10.9	9.2	12.6
手術を要した骨折	11.8	10.0	12.8	12.5	11.4	10.8	9.5
変形性関節症	11.7	12.0	11.8	13.5	10.4	14.9	9.5
多発性脳梗塞、麻痺を伴わないもの	10.2	8.0	9.6	7.8	13.5	12.3	14.7
慢性心不全	9.5	6.0	7.5	8.3	10.4	11.3	14.7
脳出血	8.7	8.0	8.0	10.4	11.9	8.2	1.1
骨粗しょう症	8.6	6.0	7.0	8.3	12.4	10.8	9.5
心筋梗塞・狭心症	8.3	2.0	6.4	8.3	11.4	13.3	7.4
脊椎疾患	7.7	10.0	7.5	7.3	9.3	8.2	7.4
その他に分類される認知症	7.6	7.0	9.6	7.3	7.3	6.2	8.4
白内障	5.9	3.0	7.0	6.3	4.7	8.2	9.5
うつ病	5.7	6.0	4.3	5.2	5.2	5.6	13.7
急性胃・腸疾患	5.6	0.0	7.0	5.7	7.8	7.2	6.3
パーキンソン病等の神経疾患	4.8	3.0	3.7	3.1	6.2	6.7	6.3
保存的治療にて対応した骨折	4.5	6.0	1.1	6.3	6.2	4.1	5.3
その他の精神疾患	4.2	6.0	4.3	2.1	2.6	6.2	6.3
心房細動等治療を要する不整脈	3.7	2.0	3.2	2.6	4.7	5.6	6.3
その他の脳血管・脳神経疾患	3.6	4.0	3.2	3.1	5.2	4.1	3.2
気管支喘息	3.3	2.0	2.7	1.6	3.1	4.6	5.3
脂質異常症	3.1	2.0	3.2	3.6	2.1	5.1	5.3
経鼻胃管や胃ろう等経管栄養状態	3.1	2.0	4.8	2.1	3.6	3.6	1.1
尿路結石等を伴う慢性尿路感染症	3.0	0.0	2.1	4.7	3.1	6.2	2.1
疼痛管理を要した筋・骨格系疾患	2.8	6.0	1.6	1.6	3.1	4.1	1.1
慢性腎不全	2.7	4.0	2.1	3.1	3.6	2.1	3.2
関節リウマチ等の膠原病	2.5	2.0	3.2	2.1	2.6	3.1	3.2
尿道カテーテル留置や人口膀胱状態	2.5	1.0	2.1	2.1	1.6	2.6	4.2
その他の肺疾患	2.4	2.0	0.0	2.6	2.1	1.5	3.2
誤嚥性・吸引性肺炎	2.2	1.0	2.1	2.1	1.6	3.6	0.0
緑内障	2.2	1.0	2.1	2.1	2.1	1.5	4.2
消化器の悪性腫瘍	2.0	2.0	1.1	2.1	3.1	2.1	3.2
前立腺肥大症	1.9	1.0	0.5	1.0	1.6	3.1	5.3
慢性肝炎・肝硬変	1.7	0.0	2.1	1.6	2.1	2.6	1.1
膵・胆道系の良性疾患	1.6	0.0	1.6	0.5	4.1	1.5	1.1

	全体	400円未満	1300円未満	3000円未満	5700円未満	13000円未満	13000円以上
肺気腫等慢性閉塞性肺疾患	1.4	1.0	1.6	0.5	1.0	0.5	3.2
甲状腺機能障害	1.4	0.0	1.6	2.1	1.0	2.1	3.2
褥創	1.3	2.0	1.1	0.5	1.0	3.1	3.2
アレルギー性皮膚疾患	1.2	0.0	1.6	0.5	2.1	1.5	2.1
HBs抗原等肝炎ウイルスキャリア	1.1	0.0	1.1	1.0	1.6	1.0	2.1
ペースメーカー等装着者	1.1	0.0	1.1	1.0	0.5	1.5	0.0
骨・筋・舌・内分泌関連の悪性腫瘍	1.1	3.0	1.1	0.5	1.0	2.1	1.1
急性尿路感染症	1.0	0.0	1.6	1.6	0.5	1.0	1.1
蜂窩織炎・白癬等感染症	1.0	1.0	3.2	1.0	0.0	1.0	1.1
その他の感染症	1.0	1.0	0.5	0.5	1.6	1.5	0.0
高尿酸血症	0.8	0.0	0.0	1.0	0.5	2.1	0.0
閉塞性動脈硬化症	0.7	0.0	1.6	0.0	0.0	1.0	3.2
生殖器の悪性腫瘍	0.7	0.0	1.1	0.5	0.5	0.5	1.1
吐血・下血等消化管出血	0.7	0.0	1.1	0.5	0.5	1.0	1.1
レビー小体型認知症	0.6	1.0	0.5	0.5	0.5	0.0	1.1
中耳炎、外耳道炎等耳疾患	0.6	0.0	1.1	0.5	0.0	1.0	0.0
その他の切創、挫創等	0.6	0.0	1.6	1.0	0.5	0.0	1.1
腎・尿路の悪性腫瘍	0.6	0.0	1.1	0.0	1.0	1.0	0.0
その他の代謝・内分泌疾患	0.4	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	1.1
呼吸器の悪性腫瘍	0.4	1.0	0.0	0.0	1.0	0.0	2.1
前頭・側頭葉型認知症	0.2	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	1.1
麦粒腫・結膜炎等眼疾患	0.2	0.0	0.0	0.5	1.0	0.0	0.0
血液、その他の悪性腫瘍	0.2	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0
ノロウイルス	0.2	0.0	0.5	0.5	0.5	0.0	0.0
MRSA等保菌者・感染者	0.2	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0
人工透析を行なっている状態	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
急性腹症	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0
インフルエンザ	0.1	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0
気管切開状態	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
疥癬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	3.0	0.0	3.7	2.1	3.1	2.1	0.0
平均疾患個数	3.15	2.50	3.17	2.96	3.37	3.65	3.54

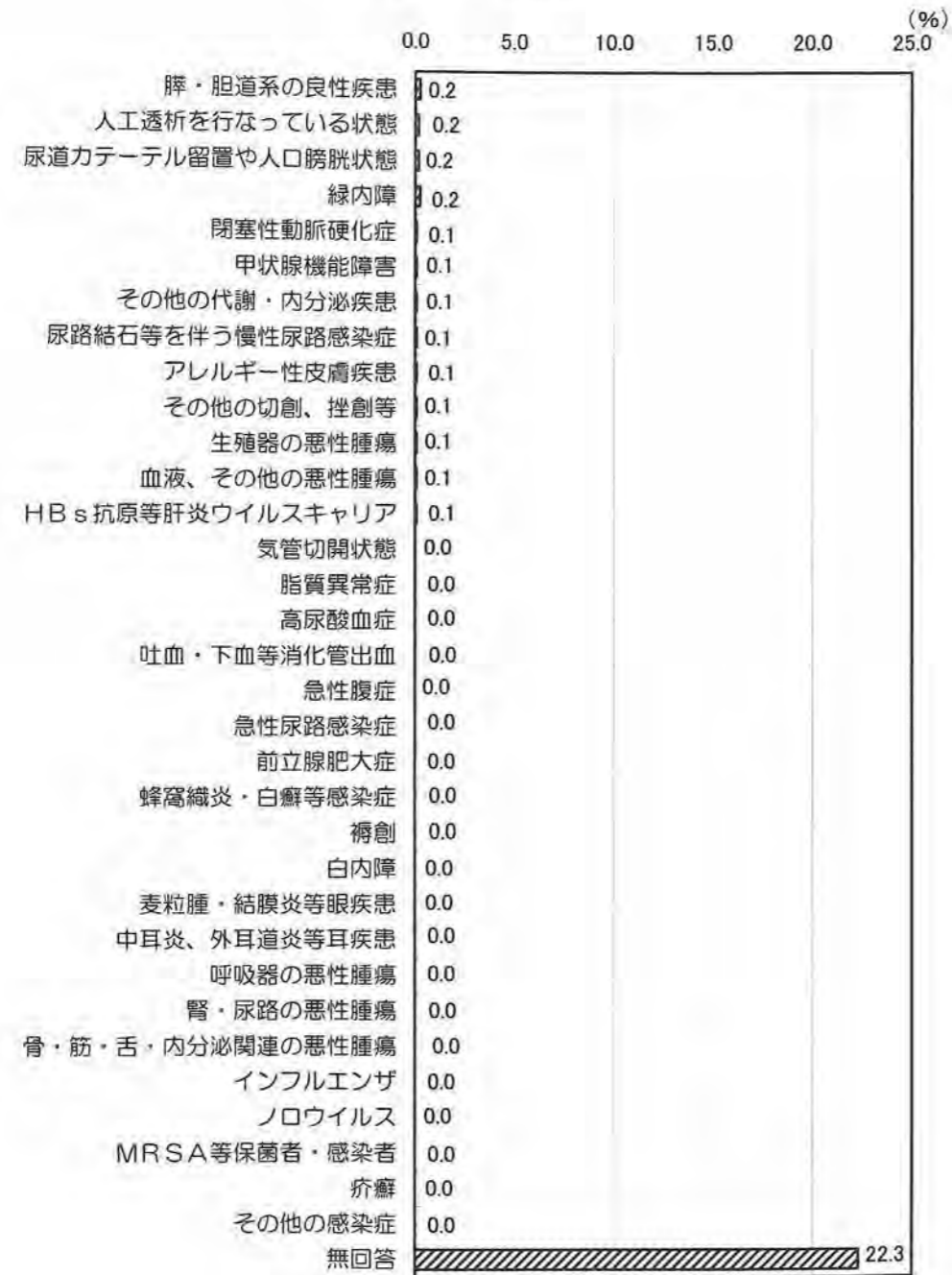
※太字斜体は10%以上、網かけは5%以上の数値

②調査時点ではまる主な疾患

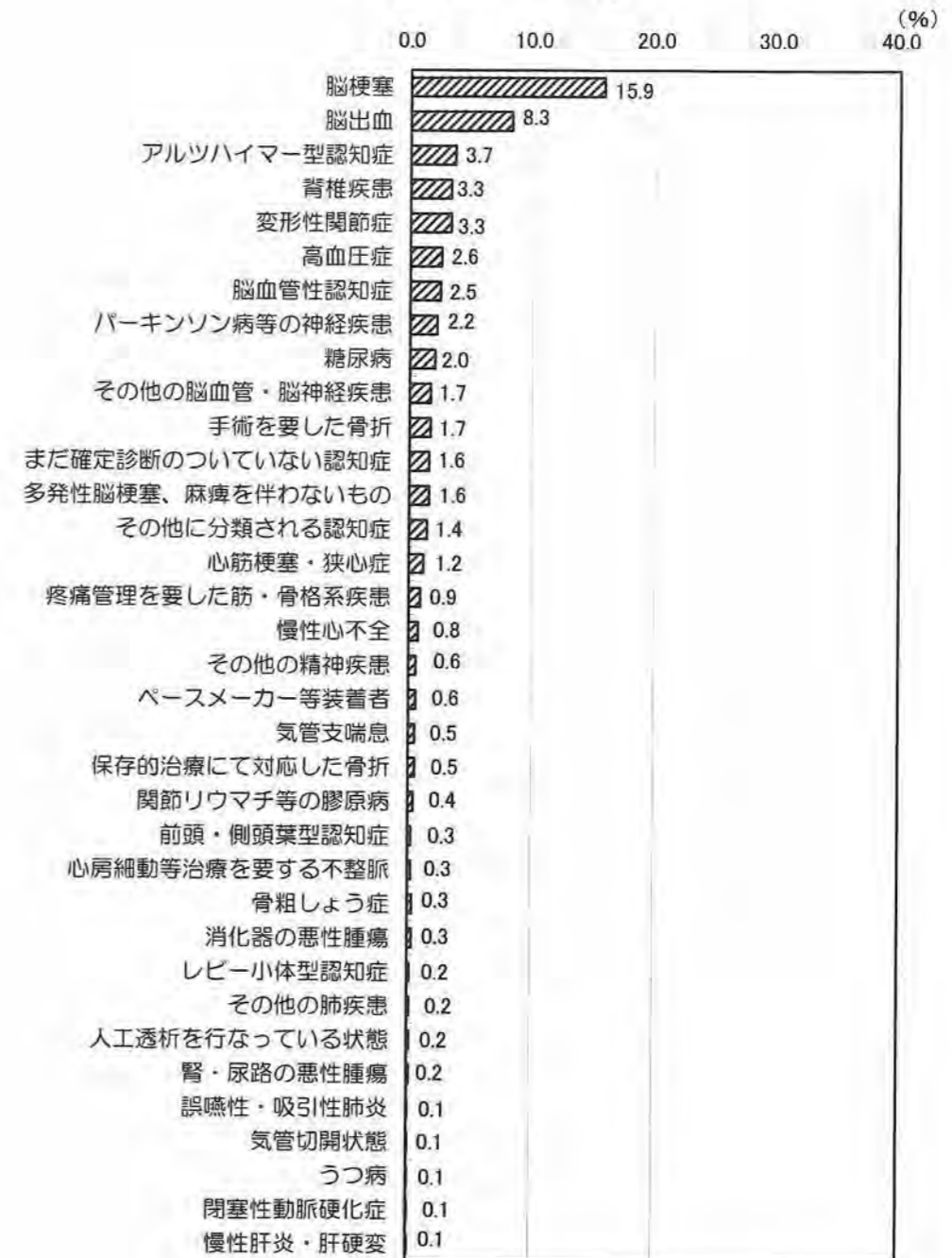
調査時点ではまる主な疾患をみると、入所者の場合、「アルツハイマー型認知症」「脳梗塞」「脳血管性認知症」の3つが10%前後で上位にあがっている。通所者の場合は「脳梗塞」が15.9%で最も多く、ついで「脳出血」が8.3%で多くなっている。



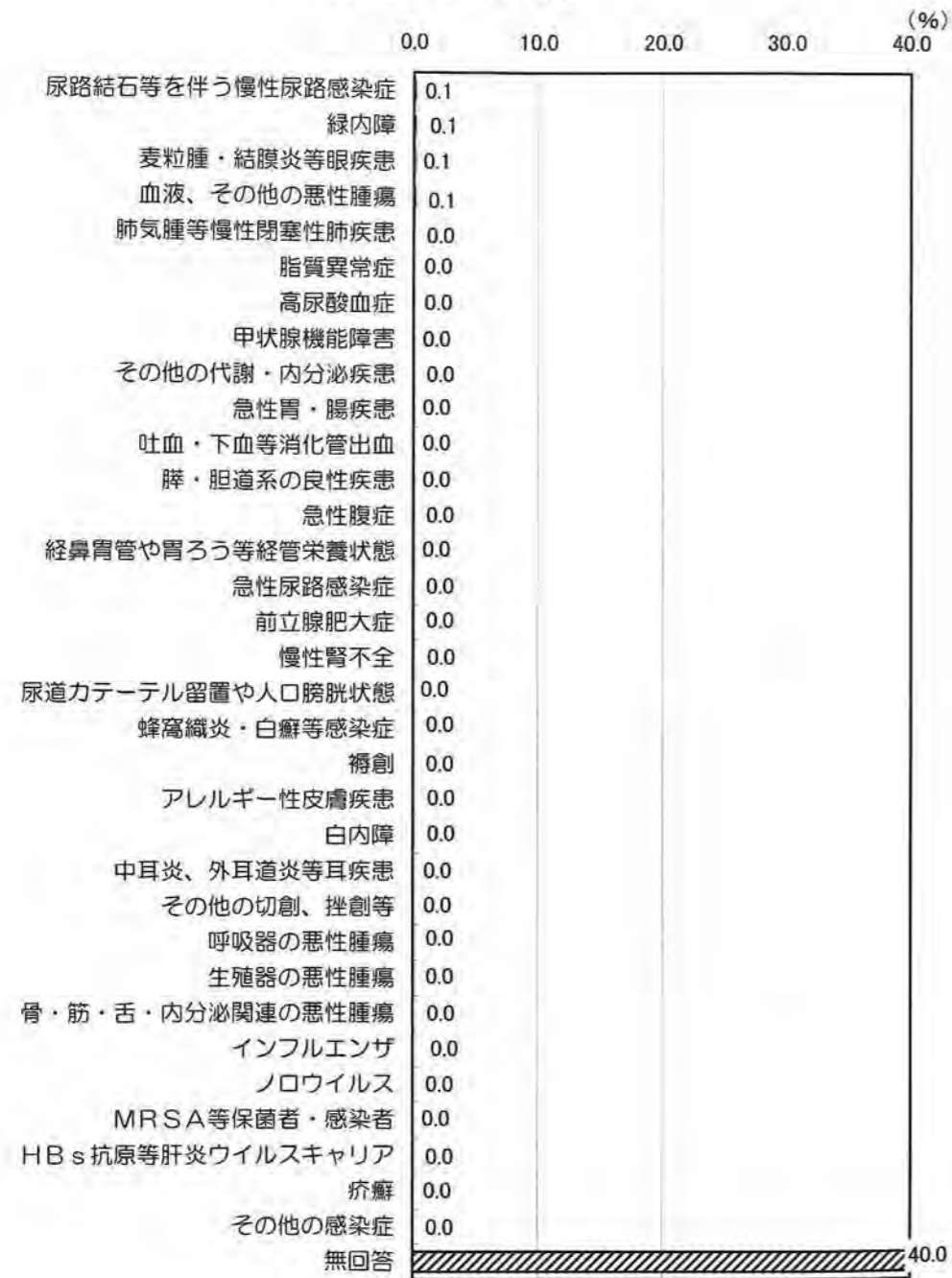
「入所者 (n=1,220)」



「通所者 (n=1,173)」



「通所者 (n=1,173)」



<入所者の主な疾患のABC分析>

12月の定期薬の費用別に入所者の調査時点ではまる主な疾患のABC分析を行ったのが次頁からの表である。

「アルツハイマー型認知症」はほぼすべてのコスト群において最も多い疾患となっており、「脳梗塞」「脳血管性認知症」「脳出血」なども共通して上位の疾患としてあげられている。

なお、高コスト群においては、「高血圧症」「慢性心不全」「糖尿病」「パーキンソン病等の神経疾患」なども上位にあげられている。

■全体

疾患名	n=948	累積
1 アルツハイマー型認知症	17.8	17.8
2 脳梗塞	13.8	31.6
3 脳血管性認知症	11.0	42.6
4 脳出血	7.0	49.6
5 まだ確定診断のついていない認知症	6.3	55.9
6 糖尿病	4.9	60.8
7 高血圧症	3.8	64.6
8 その他に分類される認知症	3.6	68.1
9 多発性脳梗塞、麻痺を伴わないもの	3.3	71.4
10 手術を要した骨折	3.1	74.5
11 慢性心不全	2.6	77.1
12 脊椎疾患	2.4	79.5
13 パーキンソン病等の神経疾患	2.0	81.5
14 変形性関節症	2.0	83.5
15 うつ病	1.7	85.2
16 関節リウマチ等の膠原病	1.5	86.7
17 その他の精神疾患	1.3	88.0
18 気管支喘息	1.1	89.0
19 疼痛管理を要した筋・骨格系疾患	1.1	90.1
20 保存的治療にて対応した骨折	0.9	91.0
21 経鼻胃管や胃ろう等経管栄養状態	0.9	92.0
22 その他の脳血管・脳神経疾患	0.8	92.8
23 慢性腎不全	0.7	93.6
24 心房細動等治療を要する不整脈	0.6	94.2
25 消化器の悪性腫瘍	0.6	94.8
26 心筋梗塞・狭心症	0.5	95.4
27 レビー小体型認知症	0.4	95.8
28 肺気腫等慢性閉塞性肺疾患	0.4	96.2
29 その他の肺疾患	0.3	96.5
30 骨粗しょう症	0.3	96.8
31 急性胃・腸疾患	0.3	97.2
32 膵・胆道系の良性疾患	0.3	97.5
33 緑内障	0.3	97.8
34 前頭・側頭葉型認知症	0.2	98.0
35 誤嚥性・吸引性肺炎	0.2	98.2
36 ペースメーカー等装着者	0.2	98.4
37 慢性肝炎・肝硬変	0.2	98.6
38 人工透析を行なっている状態	0.2	98.8
39 尿道カテーテル留置や人口膀胱状態	0.2	99.1
40 閉塞性動脈硬化症	0.1	99.2
41 甲状腺機能障害	0.1	99.3
42 その他の代謝・内分泌疾患	0.1	99.4
43 尿路結石等を伴う慢性尿路感染症	0.1	99.5
44 アレルギー性皮膚疾患	0.1	99.6
45 その他の切創、挫創等	0.1	99.7
46 生殖器の悪性腫瘍	0.1	99.8
47 血液、その他の悪性腫瘍	0.1	99.9
48 HBs抗原等肝炎ウイルスキャリア	0.1	100.0
49 気管切開状態	0.0	100.0
50 脂質異常症	0.0	100.0
51 高尿酸血症	0.0	100.0
52 吐血・下血等消化管出血	0.0	100.0
53 急性腹症	0.0	100.0
54 急性尿路感染症	0.0	100.0
55 前立腺肥大症	0.0	100.0
56 蜂窩織炎・白癬等感染症	0.0	100.0
57 褥創	0.0	100.0
58 白内障	0.0	100.0
59 麦粒腫・結膜炎等眼疾患	0.0	100.0
60 中耳炎、外耳道炎等耳疾患	0.0	100.0
61 呼吸器の悪性腫瘍	0.0	100.0
62 腎・尿路の悪性腫瘍	0.0	100.0
63 骨・筋・舌・内分泌関連の悪性腫瘍	0.0	100.0
64 インフルエンザ	0.0	100.0
65 ノロウイルス	0.0	100.0
66 MRSA等保菌者・感染者	0.0	100.0
67 疥癬	0.0	100.0
68 その他の感染症	0.0	100.0

■400円未満

疾患名	n=78	累積
1 アルツハイマー型認知症	25.6	25.6
2 脳梗塞	11.5	37.2
3 まだ確定診断のついていない認知症	10.3	47.4
4 脳血管性認知症	9.0	56.4
5 脳出血	7.7	64.1
6 その他の精神疾患	3.8	67.9
7 慢性心不全	3.8	71.8
8 疼痛管理を要した筋・骨格系疾患	3.8	75.6
9 その他に分類される認知症	2.6	78.2
10 多発性脳梗塞、麻痺を伴わないもの	2.6	80.8
11 パーキンソン病等の神経疾患	2.6	83.3
12 その他の脳血管・脳神経疾患	2.6	85.9
13 高血圧症	2.6	88.5
14 脊椎疾患	2.6	91.0
15 うつ病	1.3	92.3
16 糖尿病	1.3	93.6
17 変形性関節症	1.3	94.9
18 関節リウマチ等の膠原病	1.3	96.2
19 手術を要した骨折	1.3	97.4
20 慢性腎不全	1.3	98.7
21 消化器の悪性腫瘍	1.3	100.0
22 レビー小体型認知症	0.0	100.0
23 前頭・側頭葉型認知症	0.0	100.0
24 誤嚥性・吸引性肺炎	0.0	100.0
25 肺気腫等慢性閉塞性肺疾患	0.0	100.0
26 気管支喘息	0.0	100.0
27 気管切開状態	0.0	100.0
28 その他の肺疾患	0.0	100.0
29 心筋梗塞・狭心症	0.0	100.0
30 閉塞性動脈硬化症	0.0	100.0
31 心房細動等治療を要する不整脈	0.0	100.0
32 ペースメーカー等装着者	0.0	100.0
33 脂質異常症	0.0	100.0
34 高尿酸血症	0.0	100.0
35 甲状腺機能障害	0.0	100.0
36 その他の代謝・内分泌疾患	0.0	100.0
37 骨粗しょう症	0.0	100.0
38 保存的治療にて対応した骨折	0.0	100.0
39 急性胃・腸疾患	0.0	100.0
40 吐血・下血等消化管出血	0.0	100.0
41 慢性肝炎・肝硬変	0.0	100.0
42 膵・胆道系の良性疾患	0.0	100.0
43 急性腹症	0.0	100.0
44 経鼻胃管や胃ろう等経管栄養状態	0.0	100.0
45 急性尿路感染症	0.0	100.0
46 尿路結石等を伴う慢性尿路感染症	0.0	100.0
47 前立腺肥大症	0.0	100.0
48 人工透析を行なっている状態	0.0	100.0
49 尿道カテーテル留置や人口膀胱状態	0.0	100.0
50 蜂窩織炎・白癬等感染症	0.0	100.0
51 褥創	0.0	100.0
52 アレルギー性皮膚疾患	0.0	100.0
53 白内障	0.0	100.0
54 緑内障	0.0	100.0
55 麦粒腫・結膜炎等眼疾患	0.0	100.0
56 中耳炎、外耳道炎等耳疾患	0.0	100.0
57 その他の切創、挫創等	0.0	100.0
58 呼吸器の悪性腫瘍	0.0	100.0
59 腎・尿路の悪性腫瘍	0.0	100.0
60 生殖器の悪性腫瘍	0.0	100.0
61 骨・筋・舌・内分泌関連の悪性腫瘍	0.0	100.0
62 血液、その他の悪性腫瘍	0.0	100.0
63 インフルエンザ	0.0	100.0
64 ノロウイルス	0.0	100.0
65 MRSA等保菌者・感染者	0.0	100.0
66 HBs抗原等肝炎ウイルスキャリア	0.0	100.0
67 疥癬	0.0	100.0
68 その他の感染症	0.0	100.0

■1300 円未満

疾患名	n=147	累積
1 アルツハイマー型認知症	19.0	19.0
2 脳梗塞	14.3	33.3
3 脳血管性認知症	11.6	44.9
4 まだ確定診断のついていない認知症	7.5	52.4
5 脳出血	6.1	58.5
6 高血圧症	6.1	64.6
7 その他に分類される認知症	5.4	70.1
8 手術を要した骨折	4.1	74.1
9 多発性脳梗塞、麻痺を伴わないもの	3.4	77.6
10 糖尿病	3.4	81.0
11 経鼻胃管や胃ろう等経管栄養状態	2.0	83.0
12 気管支喘息	1.4	84.4
13 パーキンソン病等の神経疾患	1.4	85.7
14 うつ病	1.4	87.1
15 慢性心不全	1.4	88.4
16 脊椎疾患	1.4	89.8
17 変形性関節症	1.4	91.2
18 関節リウマチ等の膠原病	1.4	92.5
19 前頭・側頭葉型認知症	0.7	93.2
20 その他の脳血管・脳神経疾患	0.7	93.9
21 その他の精神疾患	0.7	94.6
22 心筋梗塞・狭心症	0.7	95.2
23 心房細動等治療を要する不整脈	0.7	95.9
24 甲状腺機能障害	0.7	96.6
25 痔・胆道系の良性疾患	0.7	97.3
26 尿道カテーテル留置や人口膀胱状態	0.7	98.0
27 消化器の悪性腫瘍	0.7	98.6
28 生殖器の悪性腫瘍	0.7	99.3
29 血液、その他の悪性腫瘍	0.7	100.0
30 レビー小体型認知症	0.0	100.0
31 誤嚥性・吸引性肺炎	0.0	100.0
32 肺気腫等慢性閉塞性肺疾患	0.0	100.0
33 気管切開状態	0.0	100.0
34 その他の肺疾患	0.0	100.0
35 閉塞性動脈硬化症	0.0	100.0
36 ベースメーカー等装着者	0.0	100.0
37 脂質異常症	0.0	100.0
38 高尿酸血症	0.0	100.0
39 その他の代謝・内分泌疾患	0.0	100.0
40 骨粗しょう症	0.0	100.0
41 保存的治療にて対応した骨折	0.0	100.0
42 疼痛管理を要した筋・骨格系疾患	0.0	100.0
43 急性胃・腸疾患	0.0	100.0
44 吐血・下血等消化管出血	0.0	100.0
45 慢性肝炎・肝硬変	0.0	100.0
46 急性腹症	0.0	100.0
47 急性尿路感染症	0.0	100.0
48 尿路結石等を伴う慢性尿路感染症	0.0	100.0
49 前立腺肥大症	0.0	100.0
50 慢性腎不全	0.0	100.0
51 人工透析を行なっている状態	0.0	100.0
52 蜂窩織炎・白癬等感染症	0.0	100.0
53 褥創	0.0	100.0
54 アレルギー性皮膚疾患	0.0	100.0
55 白内障	0.0	100.0
56 緑内障	0.0	100.0
57 麦粒腫・結膜炎等眼疾患	0.0	100.0
58 中耳炎・外耳道炎等耳疾患	0.0	100.0
59 その他の切創、挫創等	0.0	100.0
60 呼吸器の悪性腫瘍	0.0	100.0
61 腎・尿路の悪性腫瘍	0.0	100.0
62 骨・筋・舌・内分泌関連の悪性腫瘍	0.0	100.0
63 インフルエンザ	0.0	100.0
64 ノロウイルス	0.0	100.0
65 MRSA等保菌者・感染者	0.0	100.0
66 HBs抗原等肝炎ウイルスキャリア	0.0	100.0
67 疥癬	0.0	100.0
68 その他の感染症	0.0	100.0

■3000 円未満

疾患名	n=160	累積
1 アルツハイマー型認知症	15.6	15.6
2 脳梗塞	13.7	29.4
3 脳血管性認知症	12.5	41.9
4 脳出血	7.5	49.4
5 まだ確定診断のついていない認知症	6.2	55.6
6 その他に分類される認知症	4.4	60.0
7 変形性関節症	4.4	64.4
8 うつ病	3.8	68.1
9 高血圧症	3.8	71.9
10 手術を要した骨折	3.8	75.6
11 慢性心不全	3.1	78.7
12 脊椎疾患	3.1	81.9
13 多発性脳梗塞、麻痺を伴わないもの	2.5	84.4
14 パーキンソン病等の神経疾患	2.5	86.9
15 関節リウマチ等の膠原病	1.9	88.7
16 保存的治療にて対応した骨折	1.9	90.6
17 糖尿病	1.3	91.9
18 レビー小体型認知症	0.6	92.5
19 肺気腫等慢性閉塞性肺疾患	0.6	93.1
20 その他の脳血管・脳神経疾患	0.6	93.7
21 その他の精神疾患	0.6	94.4
22 心筋梗塞・狭心症	0.6	95.0
23 心房細動等治療を要する不整脈	0.6	95.6
24 ベースメーカー等装着者	0.6	96.2
25 経鼻胃管や胃ろう等経管栄養状態	0.6	96.9
26 尿路結石等を伴う慢性尿路感染症	0.6	97.5
27 慢性腎不全	0.6	98.1
28 緑内障	0.6	98.7
29 消化器の悪性腫瘍	0.6	99.4
30 HBs抗原等肝炎ウイルスキャリア	0.6	100.0
31 前頭・側頭葉型認知症	0.0	100.0
32 誤嚥性・吸引性肺炎	0.0	100.0
33 気管支喘息	0.0	100.0
34 気管切開状態	0.0	100.0
35 その他の肺疾患	0.0	100.0
36 閉塞性動脈硬化症	0.0	100.0
37 脂質異常症	0.0	100.0
38 高尿酸血症	0.0	100.0
39 甲状腺機能障害	0.0	100.0
40 その他の代謝・内分泌疾患	0.0	100.0
41 骨粗しょう症	0.0	100.0
42 疼痛管理を要した筋・骨格系疾患	0.0	100.0
43 急性胃・腸疾患	0.0	100.0
44 吐血・下血等消化管出血	0.0	100.0
45 慢性肝炎・肝硬変	0.0	100.0
46 痔・胆道系の良性疾患	0.0	100.0
47 急性腹症	0.0	100.0
48 急性尿路感染症	0.0	100.0
49 前立腺肥大症	0.0	100.0
50 人工透析を行なっている状態	0.0	100.0
51 尿道カテーテル留置や人口膀胱状態	0.0	100.0
52 蜂窩織炎・白癬等感染症	0.0	100.0
53 褥創	0.0	100.0
54 アレルギー性皮膚疾患	0.0	100.0
55 白内障	0.0	100.0
56 麦粒腫・結膜炎等眼疾患	0.0	100.0
57 中耳炎・外耳道炎等耳疾患	0.0	100.0
58 その他の切創、挫創等	0.0	100.0
59 呼吸器の悪性腫瘍	0.0	100.0
60 腎・尿路の悪性腫瘍	0.0	100.0
61 生殖器の悪性腫瘍	0.0	100.0
62 骨・筋・舌・内分泌関連の悪性腫瘍	0.0	100.0
63 血液、その他の悪性腫瘍	0.0	100.0
64 インフルエンザ	0.0	100.0
65 ノロウイルス	0.0	100.0
66 MRSA等保菌者・感染者	0.0	100.0
67 疥癬	0.0	100.0
68 その他の感染症	0.0	100.0

■5700 円未満

	疾患名	n=152	累積
1	アルツハイマー型認知症	18.4	18.4
2	脳血管性認知症	12.5	30.9
3	脳出血	11.2	42.1
4	脳梗塞	8.6	50.7
5	まだ確定診断のついていない認知症	7.2	57.9
6	多発性脳梗塞、麻痺を伴わないもの	4.6	62.5
7	糖尿病	4.6	67.1
8	その他に分類される認知症	2.6	69.7
9	高血圧症	2.6	72.4
10	慢性心不全	2.6	75.0
11	関節リウマチ等の膠原病	2.6	77.6
12	保存的治療にて対応した骨折	2.6	80.3
13	脊椎疾患	2.0	82.2
14	変形性関節症	2.0	84.2
15	手術を要した骨折	2.0	86.2
16	慢性腎不全	2.0	88.2
17	誤嚥性・吸引性肺炎	1.3	89.5
18	うつ病	1.3	90.8
19	経鼻胃管や胃ろう等経管栄養状態	1.3	92.1
20	レビー小体型認知症	0.7	92.8
21	気管支喘息	0.7	93.4
22	その他の肺疾患	0.7	94.1
23	パーキンソン病等の神経疾患	0.7	94.7
24	その他の脳血管・脳神経疾患	0.7	95.4
25	心筋梗塞・狭心症	0.7	96.1
26	ペースメーカー等装着者	0.7	96.7
27	骨粗しょう症	0.7	97.4
28	慢性肝炎・肝硬変	0.7	98.0
29	膵・胆道系の良性疾患	0.7	98.7
30	アレルギー性皮膚疾患	0.7	99.3
31	消化器の悪性腫瘍	0.7	100.0
32	前頭・側頭葉型認知症	0.0	100.0
33	肺気腫等慢性閉塞性肺疾患	0.0	100.0
34	気管切開状態	0.0	100.0
35	その他の精神疾患	0.0	100.0
36	閉塞性動脈硬化症	0.0	100.0
37	心房細動等治療を要する不整脈	0.0	100.0
38	脂質異常症	0.0	100.0
39	高尿酸血症	0.0	100.0
40	甲状腺機能障害	0.0	100.0
41	その他の代謝・内分泌疾患	0.0	100.0
42	疼痛管理を要した筋・骨格系疾患	0.0	100.0
43	急性胃・腸疾患	0.0	100.0
44	吐血・下血等消化管出血	0.0	100.0
45	急性腹症	0.0	100.0
46	急性尿路感染症	0.0	100.0
47	尿路結石等を伴う慢性尿路感染症	0.0	100.0
48	前立腺肥大症	0.0	100.0
49	人工透析を行なっている状態	0.0	100.0
50	尿道カテーテル留置や人口膀胱状態	0.0	100.0
51	蜂窩織炎・白癬等感染症	0.0	100.0
52	褥創	0.0	100.0
53	白内障	0.0	100.0
54	緑内障	0.0	100.0
55	麦粒腫・結膜炎等眼疾患	0.0	100.0
56	中耳炎・外耳道炎等耳疾患	0.0	100.0
57	その他の切創、挫創等	0.0	100.0
58	呼吸器の悪性腫瘍	0.0	100.0
59	腎・尿路の悪性腫瘍	0.0	100.0
60	生殖器の悪性腫瘍	0.0	100.0
61	骨・筋・舌・内分泌関連の悪性腫瘍	0.0	100.0
62	血液、その他の悪性腫瘍	0.0	100.0
63	インフルエンザ	0.0	100.0
64	ノロウイルス	0.0	100.0
65	MRSA等保菌者・感染者	0.0	100.0
66	HBs抗原等肝炎ウイルスキャリア	0.0	100.0
67	疥癬	0.0	100.0
68	その他の感染症	0.0	100.0

■13000 円未満

	疾患名	n=166	累積
1	脳梗塞	19.3	19.3
2	アルツハイマー型認知症	13.3	32.5
3	脳血管性認知症	9.6	42.2
4	脳出血	6.6	48.8
5	糖尿病	6.0	54.8
6	高血圧症	5.4	60.2
7	まだ確定診断のついていない認知症	4.8	65.1
8	多発性脳梗塞、麻痺を伴わないもの	4.2	69.3
9	パーキンソン病等の神経疾患	3.0	72.3
10	慢性心不全	3.0	75.3
11	脊椎疾患	3.0	78.3
12	気管支喘息	2.4	80.7
13	手術を要した骨折	2.4	83.1
14	疼痛管理を要した筋・骨格系疾患	2.4	85.5
15	その他に分類される認知症	1.8	87.3
16	その他の精神疾患	1.8	89.2
17	変形性関節症	1.8	91.0
18	うつ病	1.2	92.2
19	関節リウマチ等の膠原病	1.2	93.4
20	急性胃・腸疾患	1.2	94.6
21	経鼻胃管や胃ろう等経管栄養状態	1.2	95.8
22	その他の脳血管・脳神経疾患	0.6	96.4
23	閉塞性動脈硬化症	0.6	97.0
24	骨粗しょう症	0.6	97.6
25	慢性肝炎・肝硬変	0.6	98.2
26	慢性腎不全	0.6	98.8
27	尿道カテーテル留置や人口膀胱状態	0.6	99.4
28	消化器の悪性腫瘍	0.6	100.0
29	レビー小体型認知症	0.0	100.0
30	前頭・側頭葉型認知症	0.0	100.0
31	誤嚥性・吸引性肺炎	0.0	100.0
32	肺気腫等慢性閉塞性肺疾患	0.0	100.0
33	気管切開状態	0.0	100.0
34	その他の肺疾患	0.0	100.0
35	心筋梗塞・狭心症	0.0	100.0
36	心房細動等治療を要する不整脈	0.0	100.0
37	ペースメーカー等装着者	0.0	100.0
38	脂質異常症	0.0	100.0
39	高尿酸血症	0.0	100.0
40	甲状腺機能障害	0.0	100.0
41	その他の代謝・内分泌疾患	0.0	100.0
42	保存的治療にて対応した骨折	0.0	100.0
43	吐血・下血等消化管出血	0.0	100.0
44	膵・胆道系の良性疾患	0.0	100.0
45	急性腹症	0.0	100.0
46	急性尿路感染症	0.0	100.0
47	尿路結石等を伴う慢性尿路感染症	0.0	100.0
48	前立腺肥大症	0.0	100.0
49	人工透析を行なっている状態	0.0	100.0
50	尿道カテーテル留置や人口膀胱状態	0.0	100.0
51	蜂窩織炎・白癬等感染症	0.0	100.0
52	褥創	0.0	100.0
53	アレルギー性皮膚疾患	0.0	100.0
54	白内障	0.0	100.0
55	緑内障	0.0	100.0
56	麦粒腫・結膜炎等眼疾患	0.0	100.0
57	中耳炎・外耳道炎等耳疾患	0.0	100.0
58	その他の切創、挫創等	0.0	100.0
59	呼吸器の悪性腫瘍	0.0	100.0
60	腎・尿路の悪性腫瘍	0.0	100.0
61	生殖器の悪性腫瘍	0.0	100.0
62	骨・筋・舌・内分泌関連の悪性腫瘍	0.0	100.0
63	血液、その他の悪性腫瘍	0.0	100.0
64	インフルエンザ	0.0	100.0
65	ノロウイルス	0.0	100.0
66	MRSA等保菌者・感染者	0.0	100.0
67	HBs抗原等肝炎ウイルスキャリア	0.0	100.0
68	疥癬	0.0	100.0
69	その他の感染症	0.0	100.0

■13000 円以上

	疾患名	n=74	累積
1	アルツハイマー型認知症	24.3	24.3
2	脳梗塞	13.5	37.8
3	糖尿病	13.5	51.4
4	慢性心不全	5.4	56.8
5	まだ確定診断のついていない認知症	4.1	60.8
6	多発性脳梗塞、麻痺を伴わないもの	4.1	64.9
7	うつ病	4.1	68.9
8	パーキンソン病等の神経疾患	2.7	71.6
9	その他の精神疾患	2.7	74.3
10	高血圧症	2.7	77.0
11	心房細動等治療を要する不整脈	2.7	79.7
12	脳血管性認知症	1.4	81.1
13	前頭・側頭葉型認知症	1.4	82.4
14	その他に分類される認知症	1.4	83.8
15	肺気腫等慢性閉塞性肺疾患	1.4	85.1
16	心筋梗塞・狭心症	1.4	86.5
17	その他の代謝・内分泌疾患	1.4	87.8
18	脊椎疾患	1.4	89.2
19	関節リウマチ等の膠原病	1.4	90.5
20	手術を要した骨折	1.4	91.9
21	疼痛管理を要した筋・骨格系疾患	1.4	93.2
22	急性胃・腸疾患	1.4	94.6
23	慢性腎不全	1.4	95.9
24	緑内障	1.4	97.3
25	その他の切創、挫創等	1.4	98.6
26	消化器の悪性腫瘍	1.4	100.0
27	レビー小体型認知症	0.0	100.0
28	誤嚥性・吸引性肺炎	0.0	100.0
29	気管支喘息	0.0	100.0
30	気管切開状態	0.0	100.0
31	その他の肺疾患	0.0	100.0
32	脳出血	0.0	100.0
33	その他の脳血管・脳神経疾患	0.0	100.0
34	閉塞性動脈硬化症	0.0	100.0
35	ペースメーカー等装着者	0.0	100.0
36	脂質異常症	0.0	100.0
37	高尿酸血症	0.0	100.0
38	甲状腺機能障害	0.0	100.0
39	変形性関節症	0.0	100.0
40	骨粗しょう症	0.0	100.0
41	保存的治療にて対応した骨折	0.0	100.0
42	吐血・下血等消化管出血	0.0	100.0
43	慢性肝炎・肝硬変	0.0	100.0
44	膵・胆道系の良性疾患	0.0	100.0
45	急性腹症	0.0	100.0
46	経鼻胃管や胃ろう等経管栄養状態	0.0	100.0
47	急性尿路感染症	0.0	100.0
48	尿路結石等を伴う慢性尿路感染症	0.0	100.0
49	前立腺肥大症	0.0	100.0
50	人工透析を行なっている状態	0.0	100.0
51	尿道カテーテル留置や人口膀胱状態	0.0	100.0
52	蜂窩織炎・白癬等感染症	0.0	100.0
53	褥創	0.0	100.0
54	アレルギー性皮膚疾患	0.0	100.0
55	白内障	0.0	100.0
56	麦粒腫・結膜炎等眼疾患	0.0	100.0
57	中耳炎、外耳道炎等耳疾患	0.0	100.0
58	呼吸器の悪性腫瘍	0.0	100.0
59	腎・尿路の悪性腫瘍	0.0	100.0
60	生殖器の悪性腫瘍	0.0	100.0
61	骨・筋・舌・内分泌関連の悪性腫瘍	0.0	100.0
62	血液、その他の悪性腫瘍	0.0	100.0
63	インフルエンザ	0.0	100.0
64	ノロウイルス	0.0	100.0
65	MRSA等保菌者・感染者	0.0	100.0
66	HBs抗原等肝炎ウイルスキャリア	0.0	100.0
67	疥癬	0.0	100.0
68	その他の感染症	0.0	100.0

<入所者の主な疾患別の12月の定期薬の平均費用と総額>

入所者の調査時点であてはまる主な疾患別に12月の定期薬の平均費用及び総額をみたのが次頁からの表である。

総額ベースで見ると「アルツハイマー型認知症」の費用が最も多く、以下「脳梗塞」「脳血管性認知症」「脳出血」の順でつづいている。

	平均値算出の 基数	平均(円)	総額(円)
全体	962	5186.7	4,989,591
アルツハイマー型認知症	141	5058.6	713,265
脳梗塞	107	5482.6	586,634
脳血管性認知症	80	3541.3	327,977
脳出血	55	3404.0	283,307
まだ確定診断のついていない認知症	51	3989.2	203,450
糖尿病	35	9370.8	187,222
高血圧症	32	4606.8	151,082
多発性脳梗塞、麻痺を伴わないもの	28	5395.8	147,417
その他に分類される認知症	25	3091.4	128,069
慢性心不全	23	5568.2	122,137
手術を要した骨折	21	3936.7	86,661
脊椎疾患	18	4275.1	82,671
うつ病	16	7633.6	77,284
パーキンソン病等の神経疾患	16	5416.3	76,951
変形性関節症	16	3433.6	75,764
関節リウマチ等の膠原病	13	5828.0	62,641
その他の精神疾患	10	6264.1	54,938
疼痛管理を要した筋・骨格系疾患	8	6558.6	52,469
経鼻胃管や胃ろう等経管栄養状態	8	3408.5	50,786
慢性腎不全	7	7255.1	45,868
気管支喘息	7	6552.6	44,381
保存的治療にて対応した骨折	7	3216.4	42,334
消化器の悪性腫瘍	6	4532.8	32,508
その他の脳血管・脳神経疾患	6	2770.2	31,661
心房細動等治療を要する不整脈	4	11095.3	27,268
心筋梗塞・狭心症	4	5367.0	27,197
急性胃・腸疾患	3	10553.7	25,257
肺気腫等慢性閉塞性肺疾患	2	16254.0	23,168
前頭・側頭葉型認知症	2	12628.5	22,515
緑内障	2	7378.5	21,468
慢性肝炎・肝硬変	2	7369.0	16,621
骨粗しょう症	2	5789.0	14,757
誤嚥性・吸引性肺炎	2	3896.0	14,738
尿道カテーテル留置や人口膀胱状態	2	3739.5	11,578
ペースメーカー等装着者	2	2736.0	8,734
膵・胆道系の良性疾患	2	2709.0	7,792
レビー小体型認知症	2	2395.0	7,479
その他の切創、挫創等	1	42334.0	5,472
その他の代謝・内分泌疾患	1	23168.0	5,418
閉塞性動脈硬化症	1	8734.0	5,300
アレルギー性皮膚疾患	1	5300.0	4,790
その他の肺疾患	1	4480.0	4,480
尿路結石等を伴う慢性尿路感染症	1	2912.0	2,912
HBs抗原等肝炎ウイルスキャリア	1	2448.0	2,448
血液、その他の悪性腫瘍	1	921.0	921
甲状腺機能障害	1	868.0	868
生殖器の悪性腫瘍	1	698.0	698

③12月中に急性増悪または新たに発症した疾患

12月中に急性増悪または新たに発症した疾患については、以下の通りとなっている。

	(人)	(人)
	入所者 (n=1,220)	通所者 (n=1,173)
誤嚥性・吸引性肺炎	8	5
急性尿路感染症	8	4
その他の感染症	7	4
蜂窩織炎・白癬等感染症	6	3
褥創	6	3
アレルギー性皮膚疾患	6	3
高血圧症	5	3
保存的治療にて対応した骨折	5	3
急性胃・腸疾患	5	3
その他の肺疾患	3	2
慢性心不全	3	2
その他の切創、挫創等	3	2
脳血管性認知症	2	2
気管支喘息	2	2
パーキンソン病等の神経疾患	2	1
その他の精神疾患	2	1
糖尿病	2	1
尿路結石等を伴う慢性尿路感染症	2	1
慢性腎不全	2	1
白内障	2	1
麦粒腫・結膜炎等眼疾患	2	1
消化器の悪性腫瘍	2	1
生殖器の悪性腫瘍	2	1
アルツハイマー型認知症	1	1
脳梗塞	1	1
多発性脳梗塞、麻痺を伴わないもの	1	1
その他の脳血管・脳神経疾患	1	1
心筋梗塞・狭心症	1	1
心房細動等治療を要する不整脈	1	1
骨粗しょう症	1	1
手術を要した骨折	1	1
膵・胆道系の良性疾患	1	1
緑内障	1	1
中耳炎、外耳道炎等耳疾患	1	1
血液、その他の悪性腫瘍	1	1
インフルエンザ	1	1

④12月中に急性増悪または新たに発症した疾患の転帰

12月中に急性増悪または新たに発症した疾患の転帰については、以下の通りとなっている。

「入所者」

(人)

	n	医療 機関に 転院	軽快	治療 継続中	治療 せずに 経過 観察中	死亡	退所 (入院、 死亡を 除く)	無回答
誤嚥性・吸引性肺炎	8	0	7	1	0	0	0	0
急性尿路感染症	8	0	7	1	0	0	0	0
その他の感染症	7	1	4	2	0	0	0	0
蜂窩織炎・白癬等感染症	6	0	3	3	0	0	0	0
褥創	6	0	1	5	0	0	0	0
アレルギー性皮膚疾患	6	0	0	5	1	0	0	0
高血圧症	5	0	0	5	0	0	0	0
保存的治療にて対応した骨折	5	0	2	3	0	0	0	0
急性胃・腸疾患	5	2	3	0	0	0	0	0
その他の肺疾患	3	0	1	2	0	0	0	0
慢性心不全	3	2	0	1	0	0	0	0
その他の切創、挫創等	3	0	1	2	0	0	0	0
脳血管性認知症	2	0	0	0	1	0	0	1
気管支喘息	2	0	1	1	0	0	0	0
パーキンソン病等の神経疾患	2	0	0	1	0	0	0	1
その他の精神疾患	2	0	0	2	0	0	0	0
糖尿病	2	0	0	1	1	0	0	0
尿路結石等を伴う慢性尿路感染症	2	0	1	1	0	0	0	0
慢性腎不全	2	0	0	0	1	0	0	1
白内障	2	0	0	0	2	0	0	0
麦粒腫・結膜炎等眼疾患	2	0	1	1	0	0	0	0
消化器の悪性腫瘍	2	0	0	0	2	0	0	0
生殖器の悪性腫瘍	2	0	1	0	0	0	0	1

「通所者」

(人)

	n	医療 機関に 転院	軽快	治療 継続中	治療 せずに 経過 観察中	死亡	退所 (入院、 死亡を 除く)	無回答
その他の肺疾患	5	0	3	1	1	0	0	0
急性尿路感染症	4	0	4	0	0	0	0	0
蜂窩織炎・白癬等感染症	4	0	1	1	0	0	0	2
まだ確定診断のついていない認知症	3	0	0	1	1	0	1	0
気管支喘息	3	0	2	0	1	0	0	0
保存的治療にて対応した骨折	3	0	1	0	1	0	0	1
疼痛管理を要した筋・骨格系疾患	3	0	1	1	1	0	0	0
褥創	3	0	0	2	0	0	0	1
その他の脳血管・脳神経疾患	2	0	0	2	0	0	0	0
心筋梗塞・狭心症	2	0	0	2	0	0	0	0
変形性関節症	2	0	0	2	0	0	0	0
手術を要した骨折	2	0	0	2	0	0	0	0
アレルギー性皮膚疾患	2	0	1	1	0	0	0	0
その他の感染症	2	0	2	0	0	0	0	0

IV. 調査結果の考察と今後の検討課題

1. 調査結果の考察

老健施設は、介護だけではなくリハビリテーションや医療、そして在宅復帰に関する複合的なニーズを持った方が利用している。今回の調査は、老健施設における入所サービスと通所サービスの利用者の医療ニーズを、基礎疾患、合併疾患および最近の変化や受けている医療の状況から調査することを目的とした。

(1) 診断名に関する考察

老健施設における医療の特徴は、多くの薬剤を含む医療費が介護報酬に含まれていることである。その結果として、老健施設の利用者に必要な医療は、管理医師のもと、早期診断と早期治療など、薬剤だけに頼らない形で行われていることが想定される。したがって、今回調査した医療費は、同様の利用者が特別養護老人ホームや療養型病床群、あるいは医療保険による医療とは、単純には比較できない。

また、老健施設では、医療保険におけるレセプト病名がなく、診断名をつける基準が明確でない。今後、老健施設での医療サービスの標準化や、困難事例への対応の場合等には、診断名記載の標準化を行っていく必要があると考えられた。

そこで、今回の調査では、ICDの大分類をもとに、簡単な診断名のリストを作成し、老健施設利用者の主な診断名と、併発症それぞれをリストから選択する方法で標準化を図ることを試みた。

その結果、主たる疾患では、アルツハイマー型認知症がもっとも多く、ついで、脳梗塞、脳血管性認知症であった。国民生活基礎調査では脳梗塞がもっとも多い疾患であったが、超高齢社会において、アルツハイマー病等の認知症の急増が問題となっていることを示唆する結果であると考えられた。

また、認知症のなかでもアルツハイマー型認知症が、脳血管性認知症や確定診断がしていない認知症よりも多かったのも特徴的であった。

(2) 薬剤費に関する分析

薬剤費別のABC分析では、アルツハイマー型認知症は、すべてのコスト群でトップであり、薬剤ニーズが高い疾患であることがあらためて確認された。その他、高血圧症、慢性心不全、糖尿病、パーキンソン病等の神経疾患などが、薬剤費ではより上位にランクされるのも特徴的であった。これらは、この診断群の利用者に対する薬剤が比較的高額であることが反映されていると考えられた。

診断名別の薬剤費でもアルツハイマー型認知症は、その頻度ではトップであり、一人当たりの薬剤費は脳梗塞や糖尿病には及ばないが、罹患率を考慮するとともに薬剤費のかかる疾患であることが浮き彫りにされた。

また、糖尿病は、罹患率は高くないが一人当たりの薬剤費用が高額であるため、頻

度と一人当たりの医療費を考慮すると、アルツハイマー型認知症、脳梗塞に次いで薬剤費がかかる疾患となっている。同様に高血圧症、慢性心不全、うつ病、パーキンソン病等の神経疾患などが、一人当たり薬剤費と罹患率を考慮すると、高薬剤費の疾患となっていることが、今回の調査で明らかにされた。

また、主な疾患だけでなく、有する疾患すべてを見ても、高血圧症、認知症、慢性心不全、パーキンソン病等の神経疾患などが高コストの疾患となっていた。主疾患だけの分析では、高齢者の薬剤コストの把握には限界があり、併存症を考慮にいたれた分析が今後の課題であることがあらためて浮き彫りにされた。

一方、後発品（ジェネリック薬）の使用割合は約50%であった。現在医療保険における後発品の割合が約2割であることを考慮すると、医療費が介護給付に包括化されている老健施設では、すでに政府目標の3割をはるかに超えていることが明らかになった。

(3) 治療行為にかかわる手間のかかり具合に関する考察

老健施設の利用者において、治療行為にかかわる手間のかかり具合で問題となったのは、清拭やおむつ交換、体位変換についての手間が、要介護度が高い場合に多い。一方要介護度が低い場合には、介護拒否等、認知症に関連する状況の割合が高い傾向が認められた。

今後は、診断群毎に手間のかかり具合を検討することにより、疾病から来る介護リスクの検討を追加する必要がある。

(4) 老健施設サービス利用中の急性増悪について

老健施設サービスを利用中の急性増悪については、入所では誤嚥性・吸引性肺炎の割合が高く、ついで各種感染症、そして褥創の割合が高かった。一方通所サービスの利用者においては、その他の肺疾患、各種感染症につづいて、認知症の悪化や骨折といった状況が悪化リスクとなっていることが明らかになった。

2. 今後の検討課題

以上、これまで分析した中で考察を行った。今後は得られたデータをもとに、以下の分析を行っていく必要がある。

- ① 主疾患別のコストのばらつきを説明する因子としてどのようなものがあるのかを追加分析（身体機能およびその他のリスク状況など）
- ② 主疾患だけでなく、併存疾患を合わせた分析
- ③ 手間のかかり具合を、要介護度だけではなく、診断群からより詳細に分析を行う。
- ④ 入所、通所双方の状況に応じたリスクマネジメントに資する分析を行う必要性
- ⑤ 利用者の状態の変化に応じた、診断名や薬剤のコストの変化の検討。

最後に、今回の調査においては、まず診断名の記載方法をICDにしたがって標準化したことが特徴である。このように標準化することにより、将来の調査と比較することが可能になった。また、さまざまな制度の変更（介護報酬の変更）などに応じて、利用者の薬剤費その他の医療ニーズへの影響を分析することが可能となった。

今後は、今回の対象者についてさらに分析を深めると同時に、今回の調査対象者をコホートとして、今後の追跡調査を行えば、より意義のある分析が行えると考えられた。

資料編 (調査票)

「平成21年度 介護老人保健施設入所利用者の基礎疾患や合併症等に対する医療の調査研究事業」(平成22年1月度調査)

はじめに調査実施者の方及び調査対象者の方、調査の時期についてご記入ください。

《調査実施者について》

対象者番号(対比表の番号を記入)

所属施設名				
調査者の氏名				
調査者の職種	1 看護職 2 リハ専門職 3 介護福祉士	職種の経験年数	〔 〕年	
介護支援専門員資格の有無	1 あり 2 なし	要介護認定調査の経験の有無	1 あり 2 なし	

《調査対象者について》

性別	1 男性	2 女性	年齢	〔 〕歳	
要介護度	要支援1	2	要介護1	2	3 4 5
障害高齢者の日常生活自立度	1 正常 6 B1	2 J1 7 B2	3 J2 8 C1	4 A1 9 C2	5 A2
認知症高齢者の日常生活自立度	1 正常 5 III a	2 I 6 III b	3 II a 7 IV	4 II b 8 M	
主な疾患 (○は1つ)	A 認知症 B 呼吸器疾患 C 中枢性疾患 D 心・循環器疾患 E 代謝・内分泌疾患 F 筋・骨格系疾患 G 消化器系疾患 H 腎・尿路疾患 I 皮膚・耳鼻科疾患 J 悪性腫瘍 K 感染症				
短期集中リハビリテーションの実施(ADL)	1 加算を算定している 2 加算は算定していないが個別リハビリを行なっている 3 加算を算定しておらず、個別リハビリも行なっていない				
認知症短期集中リハビリテーションの実施	1 加算を算定している 2 加算は算定していないが認知リハビリを行なっている 3 加算を算定しておらず、認知リハビリも行なっていない				

《調査の時期について》

調査実施日は?	平成 年 月〔 〕日
---------	-----------------------

《前回（平成 21 年 3 月）調査以降、以下にあげる身体に関わる変化が調査対象者にみられましたか？

1 回でも変化があった場合は「1 あった」としてください。》

	変化の有無	
a. 転倒	0 ない	1 あった
b. 骨折	0 ない	1 あった
c. 脱水	0 ない	1 あった
d. 褥瘡の出現	0 ない	1 あった
e. 発熱	0 ない	1 あった
f. 感染症（インフルエンザ、ノロウイルス等）	0 ない	1 あった
（具体的に： _____） ※かかったもの全てを記入してください。		
g. 誤嚥	0 ない	1 あった
h. 脳の発作	0 ない	1 あった
i. 心臓発作	0 ない	1 あった
j. 麻痺進行	0 ない	1 あった
k. その他の変化 （具体的に： _____）	0 ない	1 あった

《過去一年間に、以下にあげる身体に関わる変化が調査対象者にみられましたか？

1 回でもあった場合は「1 あった」としてください。》

	変化の有無	
l. 過去 1 年間に転んだことがある	0 ない	1 あった
	※「あった」場合： _____ 回	
m. 背中が丸くなった	0 ない	1 あった
n. 歩く速度が遅くなったと思う	0 ない	1 あった
o. つえを使っている	0 ない	1 あった
p. 毎日 5 種類以上の薬をのんでいる	0 ない	1 あった

調査対象者の方の医療度（医療の必要性）についてうかがいます

《調査対象者は、調査実施時点で以下に示す「医療区分 3」のいずれかの状態（難病・医療的管理・処置・点滴・呼吸・感染症・創傷）に該当しますか？

1. 該当する（→下表のあてはまる番号に〇をつけてください）
2. 該当しない（→次頁の「医療区分 2」についてお答えください）

【医療区分 3 の状態】《該当する場合は、あてはまる数字いずれか 1 つに〇をつけてください》

あてはまる番号いずれか 1 つに〇

	難病等	医療的管理・処置等	点滴等	呼吸	感染症・創傷
医療区分 3	10 スモン	12 医師及び看護職員により、常時、監視及び管理を実施している状態	13 中心静脈栄養を実施している状態	17 酸素療法を実施している状態	16 気管切開又は気管内挿管が行われており、かつ、発熱を伴う状態
	11 神経難病等の患者であって、平成 18 年 6 月 30 日において特殊疾患療養病棟入院料 1 を算定する病棟に入院している患者 平成 20 年 3 月 31 日において現に特殊疾患医療管理料等を算定する病室に入院している患者のうち、脊髄損傷等の重度障害者、重度の意識障害者、筋ジストロフィー患者、難病患者等	15 ドレーン法又は胸腔若しくは腹腔の洗浄を実施している状態	1 24 時間持続して点滴を実施している状態	14 人工呼吸器を使用している状態	18 感染症の治療の必要性から隔離室での管理を実施している状態

《調査対象者は、以下に示す「医療区分2」のいずれかの状態（難病・医療的管理・処置・点滴・呼吸・感染症・創傷・リハビリテーション・精神・その他）に該当しますか》

1. 該当する(→下表のあてはまる番号に○をつけてください)
2. 該当しない(→次頁の「医療度4~0」についてお答えください)

【医療区分2の状態】《該当する場合は、あてはまる数字いずれか1つに○をつけてください》

あてはまる番号いずれか1つに○

難病等	医療的管理・処置等	点滴等	呼吸	感染症・創傷	リハビリテーション	精神	その他
22 パーキンソン病関連疾患 (進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、パーキンソン病(ホーエン・ヤールの重症度分類がステージ3以上であって生活機能障害度がII度又はIII度の状態に限る。))	31 褥創に対する治療を実施している状態(皮膚層の部分的喪失が認められる場合又は褥創が2カ所以上に認められる場合に限る。)	4 脱水に対する治療を実施している状態、かつ発熱を伴う状態	35 1日8回以上の喀痰吸引を実施している状態	8 経鼻胃管や胃瘻等の経腸栄養が行われており、かつ、発熱又は嘔吐を伴う状態	3 傷病等によりリハビリテーションが必要な状態	7 せん妄に対する治療を実施している状態	9 頻回の血糖検査を実施している状態
20 多発性硬化症 21 筋萎縮性側索硬化症 19 筋ジストロフィー症 23 その他の難病(スモン及び20~22までを除く。)	32 末梢循環障害による下肢末端の開創に対する治療を実施している状態	6 頻回の嘔吐に対する治療を実施している状態、かつ発熱を伴う状態	36 気管切開又は気管内挿管が行われている状態(発熱を伴う状態を除く。)	30 肺炎に対する治療を実施している状態	24 脊髄損傷(頸椎損傷を原因とする麻痺が四肢すべてに認められる場合に限る。)	33 うつ症状に対する治療を実施している状態	5 消化管等の体内からの出血が反復継続している状態
27 神経難病等の患者であって、平成18年6月30日において特殊疾患療養病棟入院料2を算定する病棟に入院している患者(仮性球麻痺の患者以外) 平成20年3月31日において特殊疾患療養病棟入院料2を算定する病棟に入院している患者のうち重度の障害者(脊髄損傷等の重度障害者、重度意識障害者、筋ジストロフィー患者、難病患者等を除く)			25 慢性閉塞性肺疾患(ヒュー・ジョンズ)の分類がV度の状態に該当する場合に限る。)	2 尿路感染症に対する治療を実施している状態		34 他者に対する暴行が毎日認められる状態	29 悪性腫瘍(医療用麻薬等の薬剤投与による疼痛コントロールが必要の場合に限る。)
28 基本診療料の施設基準等の別表第五の三の三の患者				37 創傷(手術創や感染創を含む。)、皮膚潰瘍又は下腿若しくは足部の蜂巣炎、膿等の感染症に対する治療を実施している状態			26 人工腎臓、持続緩徐式血液濾過、腹膜灌流又は血漿交換療法を実施している状態

《前ページまでの医療区分2・3にあてはまらない場合、調査対象者の医療度は、以下の「4」「3」「2」「1」「0」の医療度のどれに該当しますか。医療度の番号に○をつけてください》

あてはまる「医療度」いずれか1つに○

医療度	治療環境等	状態・実施状況	備考
4	<ul style="list-style-type: none"> ・入院等での注意深い管理が必要 ・高額な治療費 ・生命の危機や特定疾患 <p>(医療区分1の重度側)</p> <p>・前ページまでの医療区分2・3でなく、「下記3」でもない状態</p>	<p>原則、毎日かつ日常的な医療管理状態</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 検温、血圧等の「バイタル測定」は、原則1日3回以上 2) 8回以上ではないが、ほぼ日常的に喀痰吸引が実施されている。 3) 1日合計1000円以上の薬剤および日常的な処置が実施されている。 4) 近い将来の「死亡(再発等による)」が見込まれるが、医療区分2・3には合致しない状態 5) 難病(特定疾患)と認定されているが、医療区分2・3には合致しない状態 <p>上記の1)~5)のいずれかに合致した状態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の条件に該当しても、前ページまでの医療区分2、3の状況であれば、医療区分2・3とする。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な医療管理レベル ・ほぼ入院等が必要 <p>(医療区分1の軽度側)</p>	<p>原則、毎日かつ日常的な医療管理状態で、病態による日常生活への影響がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 検温、血圧等の「バイタル測定」は1日3回未満の安定した病態かつ 2) 原則1日合計1000円未満の薬剤および日常的な処置が実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同上 ・突発的な場合を除き、日常的な“喀痰吸引”は実施されていない。 ・訪問診療・訪問看護等が充実していれば在宅でも可能。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・入院あるいは外来レベル <p>(多少変調をきたした外来診療レベル)</p>	<p>生活習慣病や後遺症等が基礎にあり、変調等により診療や観察の回数が一時的に増加。</p> <p>病態(病気)による日常生活への影響は大きくはない。(身の回り、排泄等に変化は生じていない。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「下記1」ではないが、「上記3」でもない状態 ・リハビリテーションや創傷処置等の「繰り返しの受診」を除く。 ・一時的に薬剤費は「1日合計1,000円以上」となる場合を含む。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる「安定した外来診療」レベル 	<p>生活習慣病や後遺症等により、月に1~2回の“主に内科的”診療を受けることが適切(必要)な状態。</p> <p>病態による明らかな日常生活への影響は認められず、病態の変動も少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションや創傷処置等の「繰り返しの受診」を除く。
0	—	いわゆる「無疾患」、「健康」状態	

調査対象者の方の基礎疾患等の状況についてうかがいます

(医師、看護師等の医療専門職の方とご相談のうえ、ご記入をお願いします)

「調査対象者の平成21年12月の1月間にかかった薬剤費はいくらでしたか?」

※(薬価点数でお答え下さい) 例)ラシックス錠20mg 9.7円

12月1ヶ月間の定期薬 (日常的な疾患管理のための処方)の費用	12月の合計(薬価点数) _____円
12月1ヶ月間に急性増悪・新たな発症への対応(内服、 点滴、処置、外用等を含む)に要した薬剤費	12月の合計(薬価点数) _____円
12月中のその他の薬剤関係の費用	12月の合計(薬価点数) _____円
後発品(ジェネリック薬)の使用割合は、全使用薬品の 概ね何パーセントくらいですか	概ね _____%程度

「調査対象者の平成21年12月の1ヵ月間にかかった検査費はいくらでしたか?」

検査費	12月の合計 _____円
-----	------------------

「調査実施時点で、調査対象者の治療行為にかかる手間のかかり度について、以下のうち、あてはまるもの全てに○を記入してください。」

※あてはまる番号すべてに○を記入してください。

- 1 原因疾患によらず血中酸素濃度測定や酸素投与を要する状態
- 2 喀痰の吸引が頻回に必要な状態
- 3 治療を行うためスタッフがほぼ常時そばにつき添う状態
- 4 清拭やオムツの交換を頻回に要する状態
- 5 体位交換が頻回、複数人数の介助を要する状態
- 6 末梢血管の確保が困難な状態
- 7 介護拒否や突然の暴力が見られる状態
- 8 嚥下困難により食事介助の手間がかかる状態
- 9 拒食・拒薬のある状態
- 10 せん妄状態

「調査対象者の治療・管理・リハビリ等の対象となっている疾患について、19~21ページの疾患区分について、以下の①~③に沿って該当するものに○または◎をそれぞれご記入下さい」

- ① 調査実施時点で、治療・管理・リハビリ等対象となっている疾患・診断名であてはまるもの全てについて、A欄に○を記入して下さい。また、主疾患1つに◎を付けてください。
- ② 平成21年12月中に急性・新たに発症・受傷し、何らかの治療を行った疾患・診断名で、あてはまるもの全てについて、B欄に○をご記入下さい。
- ③ ②でB欄に記入した疾患・診断名の転帰について、C欄に○をご記入下さい。

疾患区分	A欄 調査時点 であては まる疾患 すべてに ○を付 け、主な 疾患1つ に◎	B欄 12月中に 急性増悪 または新 たに発症 した疾患 (すべて に○)	C欄 B欄の疾患の転帰					
			医療 機関に 転院	軽 快	治療 継続中	治療 せず に経過 観察中	死 亡	退所 (入院、 死 を 除 く)
A 認知症	A01	アルツハイマー型認知症						
	A02	脳血管性認知症						
	A03	レビー小体型認知症						
	A04	前頭・側頭葉型認知症(ピック 病等)						
	A05	まだ確定診断のついていない 認知症						
	A06	確定診断したが「その他」に分類 される認知症						
B 呼吸器疾患	B01	誤嚥性・吸引性(不顕性)肺炎						
	B02	肺気腫等慢性閉塞性肺疾患						
	B03	気管支喘息						
	B04	気管切開状態						
	B05	その他の肺疾患						
C 中枢性疾患	C01	脳梗塞(片麻痺等機能障害を 伴うもの)						
	C02	多発性脳梗塞等、麻痺を伴わ ないもの						
	C03	脳出血(片麻痺等機能障害を 伴うもの)						
	C04	パーキンソン病・脊髄小脳変 性症等の神経疾患						
	C05	うつ病						
	C06	その他の脳血管・脳神経疾患						
	C07	その他の精神疾患						

疾患区分		①欄	②欄	③欄						
		調査時点 では まる疾患 すべてに ○を付 け、主な 疾患1つ に◎	12 月中に 急性増悪 または新 たに発症 した疾患 (すべて に○)	③欄の疾患の転帰						
				医療機関 に 転院	軽 快	治療 継続中	治療 せずに 経過 観察中	死 亡	退所(入院、 死 亡を除く)	
D 心・ 循環器 疾患	D01	高血圧症								
	D02	慢性心不全								
	D03	心筋梗塞・狭心症								
	D04	閉塞性動脈硬化症								
	D05	心房細動等治療を要する 不整脈								
	D06	ペースメーカー等装着者								
	E 代謝・ 内分泌 疾患	E01	糖尿病							
E02		脂質異常症								
E03		高尿酸血症								
E04		甲状腺機能障害								
E05		その他の代謝・内分泌疾患								
F 筋・骨 格系疾患	F01	脊椎疾患(脊損・脊椎間 隙狭窄症、変形性脊椎症等)								
	F02	変形性関節症(股関節・膝 関節・手関節等)								
	F03	骨粗しょう症								
	F04	関節リウマチ等の膠原病								
	F05	手術を要した骨折(大腿骨 頸部骨折等)								
	F06	保存的治療にて対応した骨 折(※に部位を記入)								
	F07	その他、疼痛管理を要した 筋・骨格系疾患								
G 消化器 疾患	G01	急性胃・腸疾患(消化性潰 瘍を含む)								
	G02	吐血・下血等消化管出血								
	G03	慢性肝炎・肝硬変								
	G04	膵・胆道系の良性疾患								
	G05	急性腹症								
	G06	経鼻胃管や胃瘻等経管栄 養状態								

疾患区分		①欄	②欄	③欄						
		調査時点 では まる疾患 すべてに ○を付 け、主な 疾患1つ に◎	12 月中に 急性増悪 または新 たに発症 した疾患 (すべて に○)	③欄の疾患の転帰						
				医療機関 に 転院	軽 快	治療 継続中	治療 せずに 経過 観察中	死 亡	退所(入院、 死 亡を除く)	
H 腎・尿 路疾患	H01	急性尿路感染症								
	H02	神経因性膀胱、尿路結石 等を伴う慢性尿路感染症								
	H03	前立腺肥大症								
	H04	慢性腎不全								
	H05	人工透析を行っている状態								
	H06	尿道カテーテル留置や人 工膀胱状態								
I 皮膚・ 耳鼻科 疾患	I 01	蜂窩織炎・白癬等感染症								
	I 02	褥創								
	I 03	アレルギー性皮膚疾患								
	I 04	白内障								
	I 05	緑内障								
	I 06	麦粒腫・結膜炎等眼疾患								
	I 07	中耳炎、外耳道炎等耳疾 患								
	I 08	その他の切創、挫創等								
J 悪性腫 瘍	J01	消化器(胃・肝・胆・膵・腸 管・食道)の悪性腫瘍								
	J02	呼吸器の悪性腫瘍								
	J03	腎・尿路の悪性腫瘍(前立 腺を含む)								
	J04	生殖器の悪性腫瘍(子宮癌 等)								
	J05	骨・筋・皮膚・舌・乳腺・内分 泌関連の悪性腫瘍								
	J06	血液、その他の悪性腫瘍								
K 感染症	K01	インフルエンザ								
	K02	ノロウイルス								
	K03	MRSA等保菌者・感染者								
	K04	HBs抗原、HCV抗体等肝 炎ウィルスキャリア								
	K05	疥癬								
	K06	その他の感染症								

社団法人



全国老人保健施設協会

〒105-0014 東京都港区芝2-1-28 成旺ビル7階
TEL 03-3455-4165 FAX 03-3455-4172